

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

<37週> 手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 定点当たり患者報告数は例年に比べてかなり多い / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

<腸管出血性大腸菌感染症> 第37週の報告患者総数は146
<無菌性髄膜炎> 第37週の報告患者総数は44で、定点当たり報告数は0.1



病原体情報
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 Veroto毒素産生性大腸菌 / 手足口病 / ヘルパンギーナ / 無菌性髄膜炎 / 他



速報
P.6-8

山形県で続発したレジオネラ肺炎 / 24時間風呂での水中分娩後発症した新生児レジオネラ肺炎の1例 / 他



海外感染症情報
P.9-10

サウジアラビアでリフトバレー熱の流行 / 鉢植えの土に関連したレジオネラ症 アメリカ / 他



感染症の話
P.11-14

薬剤耐性緑膿菌感染症
各種の抗菌薬に耐性を示す傾向が強く、術後感染症などの日和見感染症の起菌菌として問題になっている



読者のコーナー
P.15



グラフ総覧(37週)
P.16-22



37週のデータ
P.23-30



発生動向総覧

第37週コメント 9月22日集計分

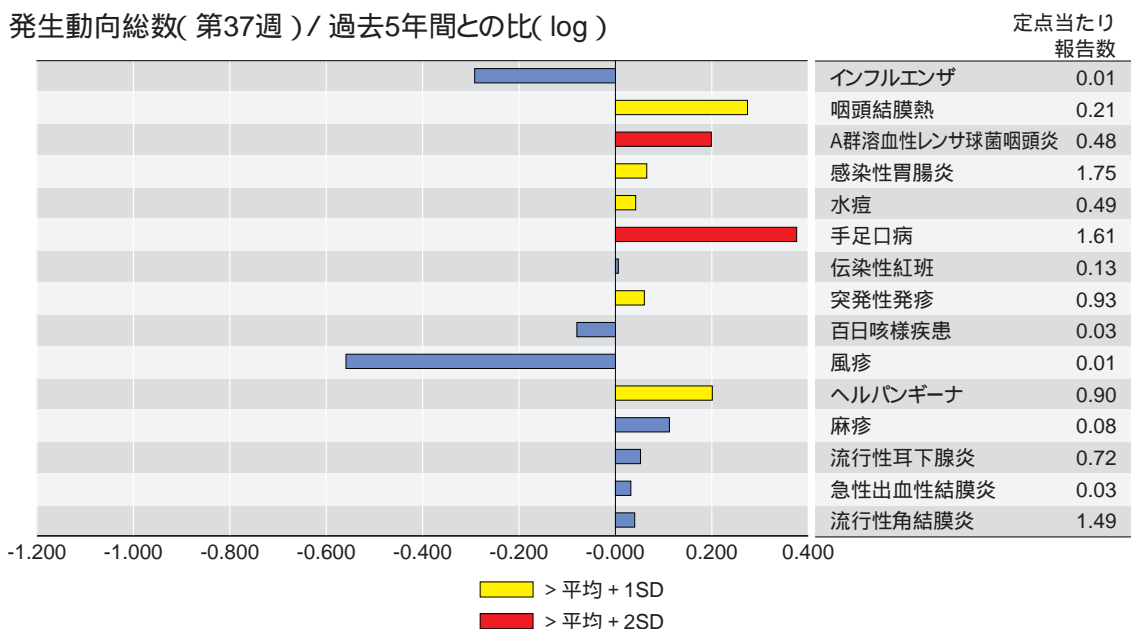
全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: コレラ1例(推定感染地: 国内)
 - 細菌性赤痢19例(推定感染地: 中国4例、インドネシア3例、インド・タイ・ネパール各2例、モルディブ・ベトナム・モロッコ・パキスタン・その他各1例、不明1例)
 - 腸チフス1例(疑似症例)、パラチフス1例(推定感染地: インド)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症146例(福岡県の保育園でO157の集団感染事例あり)
- 4類感染症: アメーバ赤痢2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、ジアルジア症1例、破傷風1例、急性ウイルス性肝炎9例
 - B型2例__うち性行為感染1例
 - C型3例
 - サイトメガロウイルス2例、EBウイルス1例、不明1例
 後天性免疫不全症候群4例(無症候性キャリア0例、AIDS4例)
 - 感染経路__不明2例、性行為感染2例(ともに異性間)
 日本脳炎1例、レジオネラ症1例、梅毒4例(早期顕性1例、晩期顕性0例、無症状3例、先天性梅毒0例)、マラリア2例(三日熱マラリア1例__推定感染地: インド、種類不明1例__推定感染地: ナイジェリア)

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数が、例年に比べてかなり多くなっている。手足口病の定点当たり報告数が多いのは、鳥取県、長野県、大分県で、定点当たり報告数はそれぞれ5.1、4.8、3.6となっている。流行性角結膜炎は茨城県で定点当たり報告数7.1、長崎県で4.1と多い(手足口病、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、流行性角結膜炎の病原体については5ページ病原体情報参照)。

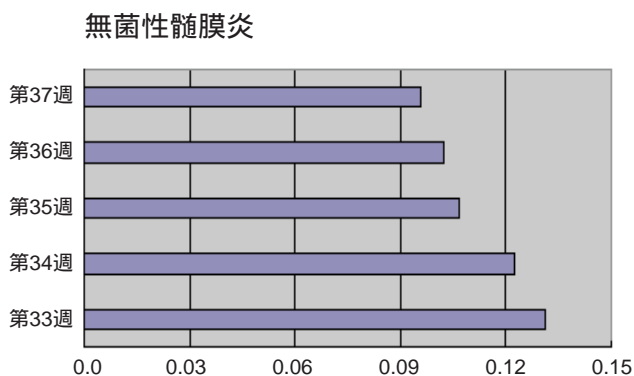
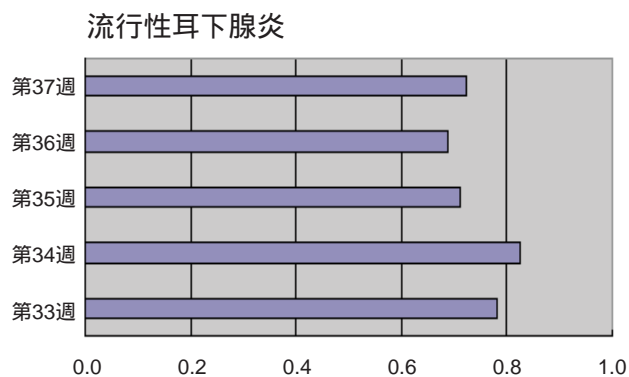
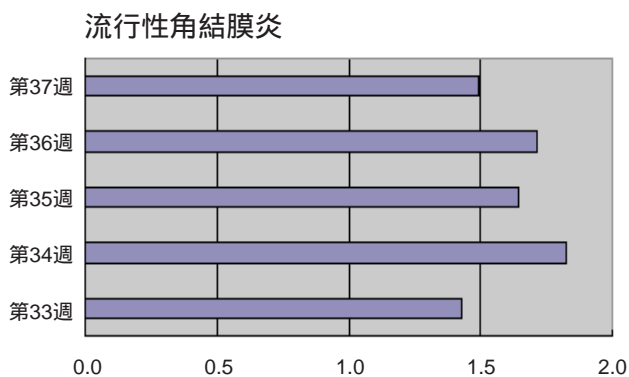
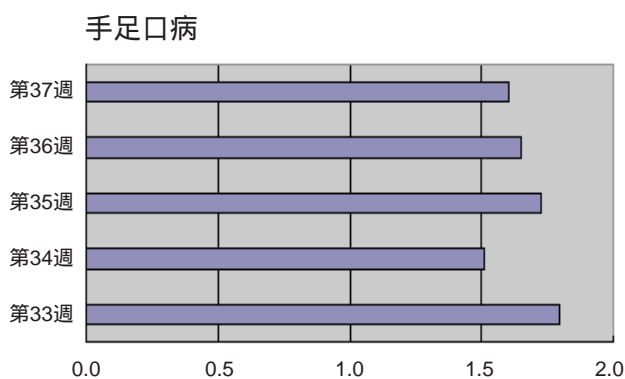
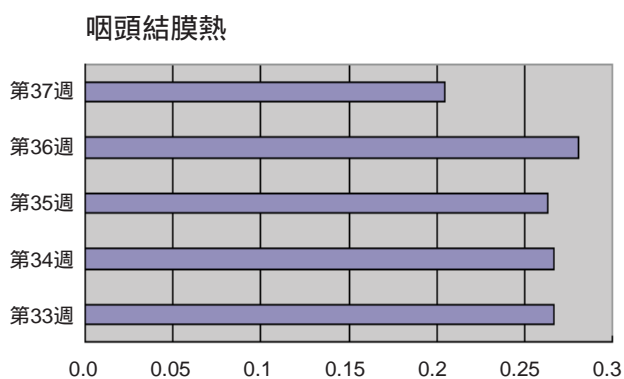
発生動向総数(第37週) / 過去5年間との比(log)



当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均) の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

最近の注目疾患-5週間の動き

手足口病の定点当たり報告数は、わずかながら2週連続で前週より減少した。咽頭結膜熱、流行性角結膜炎の定点当たり報告数は前週より減少した。流行性耳下腺炎は定点当たり報告数が前週より増加した。無菌性髄膜炎は減少傾向にある。



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。

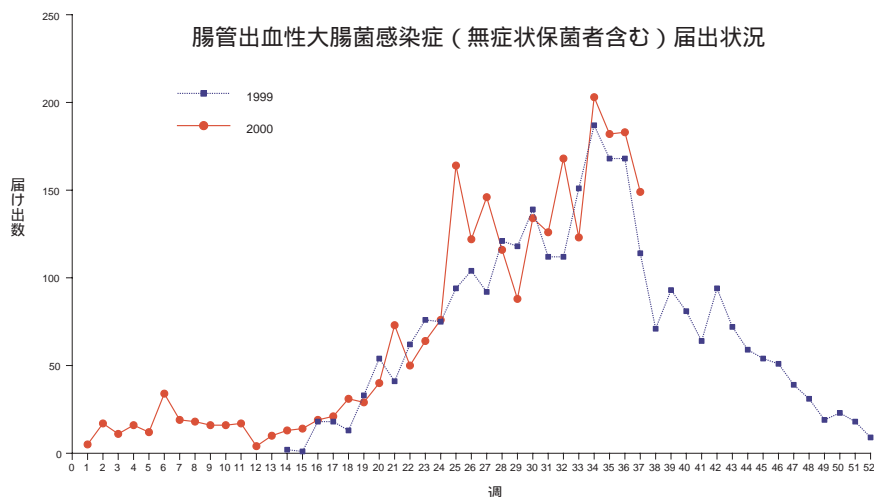
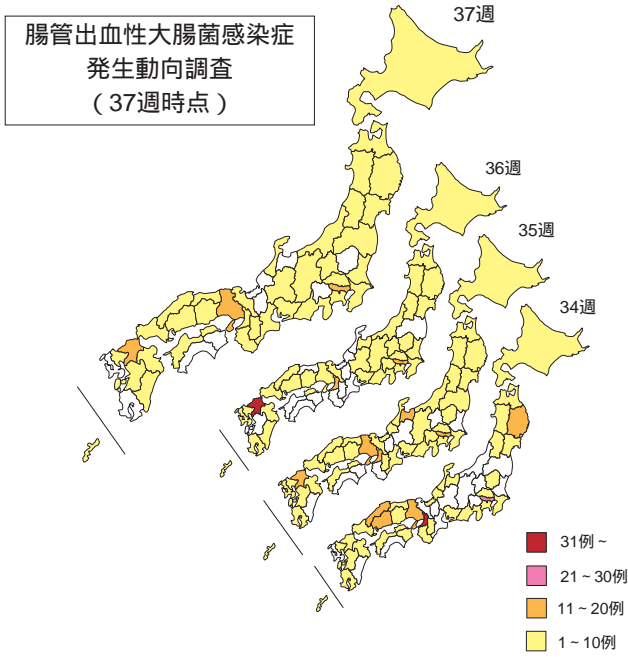


注目すべき感染症

腸管出血性大腸菌感染症流行状況

2000年第37週(9月11日～9月17日)の、腸管出血性大腸菌感染症報告総数(無症状病原体保有者含む)は146であった。

報告件数が多かったのは、福岡県(17)、東京都(15)、兵庫県(12)、大阪府(9)などであった(Vero毒素産生性大腸菌O157、O26の検出状況については、5ページ病原体情報参照)。2000年第1週からの累積患者報告数は2,521となり、大阪府、東京都、神奈川県、愛知県、福岡県、兵庫県など大都市を含む都府県で累積報告数が多い。



無菌性髄膜炎流行状況

無菌性髄膜炎は基幹病院定点からの報告疾患で、その多くはウイルス性髄膜炎であるため、基本的な流行パターンは主流となるエンテロウイルスのそれに従う。すなわち、初夏から上昇し始め、夏から秋にかけて流行が見られる。今年も5月の連休明け頃より報告数が急増しており、第30週の定点当たり報告数0.24が現在のところピークとなっている。

第37週(9月11日～9月17日)の、全国定点医療機関からの無菌性髄膜炎患者報告総数は44で、定点当たり報告数は0.1であった。

患者の年齢階級別では、9歳以下の幼児が全体の77%を占め、20歳以上の成人例は全体の7%である。

基幹病院定点からの病原体報告によると、今年第37週までに無菌性髄膜炎から分離されたウイルスで最も多かったのはEV71(94件)、次いでムンプスウイルス(81件)で、3位のエコー16型の9件、4位の水痘・帯状疱疹ウイルスの7件を大きく上回っている(病原体検出情報事務局に入った地方衛生研究所からの無菌性髄膜炎病原体情報については5ページ病原体情報参照)。



病原体情報

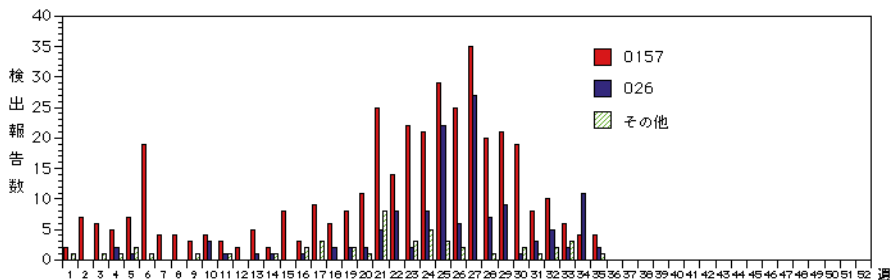
(2000年9月21日現在報告分)

*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.gov/iasr/index-j.html>)からの引用です。

ヒトから分離されたVero毒素産生性大腸菌O157およびO26 2000年

本年のVero毒素産生性大腸菌の検出総数は、O157が381件、O26が135件である。O157は、大阪府(61)、佐賀県(22)、富山県(20)、福岡市(20)、滋賀県(18)の順で報告数が多く、第33週以降では石川県6、佐賀県3、島根県2、愛媛県2、横須賀市1である。O26は、島根県(31)、大阪府(23)、石川県(19)からの報告数が多く、第33週以降では島根県14、石川県2の報告である。

週別Vero毒素産生性大腸菌検出報告数、2000年(病原微生物検出情報:2000年9月21日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。

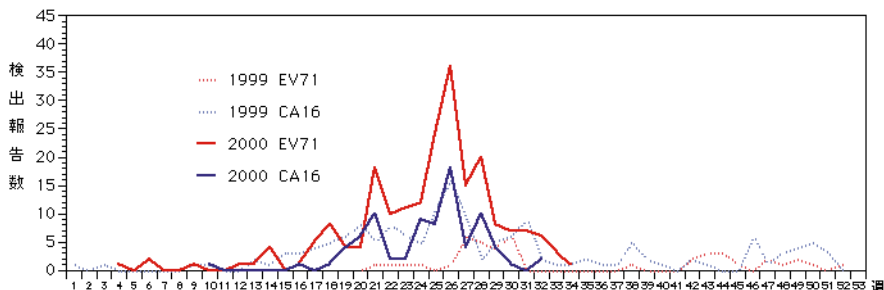


Infectious Agents Surveillance Report

手足口病患者から分離されたウイルス 2000年

エンテロウイルス71型(EV71)の分離は165件報告され、熊本県(35)、愛媛県(33)、神奈川県(17)、愛知県(14)からの報告が多く、第33週以降では東京都から2件、岩手県から1件の報告である。コクサッキーウイルスA16型(CA16)は81件の報告、CA10は13件の報告である。

週別エンテロウイルス71型、コクサッキーA16型分離報告数、年別比較(1999年、2000年)
(病原微生物検出情報:2000年9月21日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

ヘルパンギーナ患者から分離されたウイルス 2000年

A群コクサッキーウイルス(CA)147件(10型54、4型41、6型32、2型14、8型2、9型2、3型1、5型1)の分離が報告されている。

無菌性髄膜炎患者から分離されたウイルス 2000年

エコーウイルス(E)130件(25型34、9型33、3型17、11型13、30型13、6型11、18型6、4型1、17型1、21型1)、B群コクサッキーウイルス(CB)71件(5型20、3型18、4型15、1型13、2型3、6型2)、ムンプスウイルス27件、エンテロウイルス71型(EV71)26件、CA9型6件、CA10型3件の分離が報告されている。

咽頭結膜熱患者から分離されたウイルス 2000年

アデノウイルス(Ad)88件(3型40、2型22、1型16、5型3、4型2、6型2、7型2、19型1)の分離が報告されている。

流行性角結膜炎から分離されたウイルス 2000年

アデノウイルス31件(4型8、3型6、11型4、37型4、8型3、19型3、2型1、6型1、7型1)の分離が報告されている。



山形県で続発したレジオネラ肺炎

感染症法の施行によりレジオネラ症が全数届出の感染症となり、2000(平成12)年1月～8月にかけて山形県内内陸部で8件本症の届出があった。これまでには1996(平成8)年に湯治後1人発症したという事例が報告されているのみで、県内におけるレジオネラ症の発生実態はこれまでほとんど不明であった。

患者発生状況: 2000年1月31日、県内のA病院から1人のレジオネラ症発生届があった。2000年4月にA病院から3人のレジオネラ肺炎を疑う患者の検査依頼が衛生研究所にあった。3人中2人は尿中レジオネラ抗原陽性(Biotest)でレジオネラ症として届出された。その後、数カ所の病院から15人のレジオネラ肺炎を疑う患者の検査依頼があり、5月にB病院から1人、6月にC病院から2人、D病院から1人、8月にA病院から1人、計5人の尿中レジオネラ抗原陽性者が確認された。

レジオネラ症と診断された8人は全員男性で、年齢は40代2人、50代2人、60代4人。いずれも難治性の肺炎で、39以上の高熱がみられたほか、神経症状の認められた例(3人)もあった。

病原検査: 5人から喀痰が採取されたが、レジオネラ属菌が分離されたのは1人のみであった。分離菌は*Legionella pneumophila* 血清群(SG)1であった。

尿中レジオネラ抗原は患者8人中6人で陽性であった。陽性6人の尿は8病日～43病日の検体であった。最初に届出のあった1人は陰性で、200病日以上検体であった。残りの1人は7病日の検体で陰性であったが、10倍濃縮したところ陽性を示した。レジオネラ症が否定された肺炎患者(9人)および健康者(10人)の尿を10倍濃縮して測定したが、OD値の上昇はみられなかった。

血清抗体は間接蛍光抗体法およびマイクロプレート凝集反応により測定した。8人ともSG1に対する抗体の上昇がみられた。抗体の上昇は20病日前後から確認された。

疫学調査: 最初に届出のあった患者の推定される感染原因は、X町の温泉であることが届けられた。所轄保健所では2月に同施設を立ち入り調査し、衛生指導を行うとともに、6浴槽のレジオネラ菌の検査を行った。1浴槽から*L. pneumophila*が100 CFU/100ml以下検出され、血清群はSG4であった。その後4月に届出のあった患者2人についても、推定される感染原因としてX町の同一温泉施設であると届出があり、4月末保健所は再度立ち入りを行った。12浴槽のレジオネラ菌の検査を行ったところ、浴槽により*L. pneumophila*の多い浴槽(4浴槽: 10,000～1,000 CFU/100ml)と検出されない浴槽(8浴槽)が認められた。分離されたコロニーを数個拾い血清に当たったところ、分離された*L. pneumophila*はSG4、5、6、UTであった。患者から分離された菌がSG1であることから、SG1株の分離を再度試みたところ、約80コロニーに1コロニー程度の割合でSG1が分離された。3浴槽から16株のSG1を分離し、この16株と患者由来株をSfiI消化後パルスフィールド・ゲル電気泳動(PFGE)を行った。浴槽由来株は2つのパターンに分類されたが、患者由来株とは明らかに異なるパターンを示した。また、過去に県内の温泉から分離されたSG1(10株)をPFGEしたところ、8パターンに分類されたが、患者由来株と同じパターンを示すものはなかった。以上のことから、X町の温泉施設と患者との関連を支持する結果を得ることはできなかった。

その後、この温泉施設では一般的な衛生管理のほか、塩素消毒の使用、*L. pneumophila*が多く検出された打たせ湯、気泡湯を廃止するなどの改善を行っている。

レジオネラ症の早期診断法として、尿中レジオネラ抗原の検出は有意義なものであった。疑わしいものについては尿を濃縮して検出する意義も大きいと思われる。一方、抗体の上昇確認には3週間程度要する例が多かった。

山形県衛生研究所

大谷勝実 菅原裕美子 須藤正英 村山尚子 早坂晃一

(IASR9月号より抜粋、詳細はIASR Vol.21 No.9, 2000 P.4-5)

24時間風呂での水中分娩後発症した新生児レジオネラ肺炎の1例

新生児レジオネラ肺炎の報告は本邦においてはこれまで5例あるが、いずれも院内感染例と考えられる。本症例は24時間風呂での水中分娩により新生児がレジオネラ肺炎を発症した最初の報告である。

患児は1999年6月15日出生、第2子で、在胎週数42週、出生体重3,500gの女児である。母体の妊娠経過に特記すべきことはなく、妊娠中より母親は自宅での水中分娩を希望していた。出産時の助産婦立ち会いはなく、自宅の24時間風呂にて水中分娩した。生後15分に助産婦が自宅に到着し、その時点では児に特に問題はなかった。

日齢4に黄疸、発熱を認め、近医に光線療法のため入院となったが、翌日軽快し、退院した。日齢7に発熱が認められ、夜間に嘔吐がみられたが、翌、日齢8には解熱しており、活気は普段と変わりがなかった。同日14時30分呼吸停止の状態に気付き、119番通報した。救急隊到着時、心肺停止状態で、当院救急外来に搬送となった。蘇生行為が行われるも反応せず、死亡が確認された。

家族の了承を得て病理解剖を行ったところ、両側肺に小豆大の結節がびまん性に認められた。結節内では肺肺腔内に好中球の浸潤と組織球の集簇を認めた。組織球内にはグラム染色難染性、ヒメネス染色陽性の桿菌を多数認めた。病変部肺組織より、PCR法で *Legionella pneumophila* DNAが検出され、間接蛍光抗体法で *L. pneumophila* 血清群(SG)6抗原陽性の桿菌が多数認められた。以上により、患児は *L. pneumophila* SG6による肺炎で死亡したと判断された。

出産時に使用された24時間風呂の浴槽水は出産後に入れ替えをされており、浴槽水のサンプルは出産2週間後に採取されたもので、浴槽水中のレジオネラ属菌の菌数は14,640 CFU/100mlであった。菌種については同定できなかった。

24時間風呂は生物浄化を導入しているので、風呂水からは相当数の細菌が検出されることが多い。24時間風呂での水中分娩にはレジオネラ感染症に限らず、細菌感染症を引き起こす危険性がある。

名古屋第二赤十字病院小児科 永井琢人 側島久典 岩佐充二
 名古屋第二赤十字病院病理 都築豊徳
 国立感染症研究所細菌部 倉 文明 前川純子 渡辺治雄

(IASR9月号より抜粋、詳細はIASR Vol.21 No.9, 2000 P.5-6)

病院の風呂が感染源と推定されたレジオネラ肺炎の1例

症例: 70代、女性

現病歴: 2000(平成12)年5月下旬、間質性肺炎にて入院、ステロイド内服薬による治療を受けていた。症状の改善に伴い週末は外泊を繰り返しており、6月16日～18日まで外泊。また6月23日早朝から再び外泊したものの発熱などの体調不良のため、6月25日帰院。6月22日にはCRP 0.2mg/dlと感染症兆候はなかったが、外泊後の6月26日には胸部レントゲンで右上肺に大葉性肺炎像および血液データにてWBC 1,900/μl、CRP 53.3mg/dlと重症肺炎となっていた。抗生物質の投与が開始されたが、全身状態の悪化もあり、集中治療部にて呼吸管理などの集中治療を施すも効果見られず、6月28日死亡した。

細菌検査: 喀痰および気管支洗浄(6月27日採取)の塗抹検査ヒメネス染色にて好中球内に存在する桿菌を検出、レジオネラ菌が疑われた。培養検査では、*Legionella pneumophila* が検出された。血清

群1～6の血清型に反応せず、血清群はN/A(非凝集型)とした。菌の同定はDDH法および抗血清による凝集反応で行った。

レジオネラ症に関連する病歴: 自宅浴槽は24時間風呂ではない。外泊中に温泉地へ出かけたことはない。

レジオネラ症に関する入院環境の情報: 入院中は主として病棟内のシャワーおよび洗面台を使用。時に病院内展望風呂(24時間風呂)を使用していたとの情報あり。加湿器、ネブライザー吸入器は使用せず。散歩で近くの公園(噴水あり)まで出かけることあり。

病院内の水中のレジオネラ菌検査: 展望風呂の女湯より*L. pneumophila* N/Aと*L. pneumophila* SG6の菌株を検出、菌量は約100 CFU/100mlと推定された。同定は患者由来菌と同じくDDH法と抗血清による凝集反応で行った。その他展望風呂男湯、展望風呂のカラン、シャワー水、病棟内カラン、シャワー水からはレジオネラ菌は検出されなかった。公園の噴水や、患者自宅の風呂水からも検出されなかった。

レジオネラ菌のタイピング: 患者から検出されたレジオネラ菌と女湯より検出されたレジオネラ菌のPCR法を用いたタイピングを行った。3種類のプライマーを用いたRAPD(Random Amplified Polymorphic DNA Analysis)を行い、患者菌と女湯の*L. pneumophila* N/A菌とが類似したパターンを示し、同湯からの感染が疑われた。

レジオネラ菌による院内感染の発生: 本症例を除いては同時期にレジオネラ症の発生を見ていない。

考察: レジオネラ院内肺炎は冷却塔水、加熱が不十分な給湯施設や消毒が不十分な加湿器がその原因とされてきた。今回我々は、病院の24時間風呂が原因と考えられた症例を経験し、同様の施設を有する医療関係機関に注意を促したい。

24時間風呂は患者アメニティのために本院に導入された。長時間一定温度にお湯の温度が保たれるため、入浴時間の制限が少なく、昼間ならいつでも入ることができる。またランニングコストも抑えることができる。しかし、24時間風呂におけるレジオネラ菌の汚染は以前から指摘されてきた。

開発当初の24時間風呂では10,000 CFU/100ml程度の大量のレジオネラ菌が検出されており、社会問題化した。その後、装置の改良により100 CFU/100mlを望ましい範囲と業界の自主規制で規定した(1997年)。その後、1999年11月厚生省より建築物等におけるレジオネラ症防止対策について(生衛発第1679号)が出され、10 CFU/100ml未満と実質検出限界以下という非常に厳しい指針が示された。現存する24時間風呂がどれくらいこの基準に適應するのか公表されていないが、業界の迅速な対応を望むものである。

本症例は外出機会が多かったことや、他の入院患者よりレジオネラ感染症の発生がないことなどから厳密な意味では院内肺炎であるとの確定はできない。しかし、レジオネラ菌が検出されたのが当院の女湯のみであったこと、患者はステロイド内服中の易感染性宿主であったこと、さらには菌のタイピングが一致したことより、女湯中のレジオネラ菌が感染した可能性が高いと考える。同様の施設を有する医療機関では厳重なレジオネラ菌管理が望まれる。

名古屋大学医学部附属病院検査部感染症 飯沼由嗣

(IASR9月号より抜粋、詳細はIASR Vol.21 No.9, 2000 P.6-7)



海外感染症情報

サウジアラビアでリフトバレー熱の流行

WHO/CSR 2000年9月18日

9月17日現在、サウジアラビア保健省は同国の南西部のJizan地区でリフトバレー熱によって男性14人、女性2人、計16人の死亡を報告した。確定診断は合衆国CDCにあるWHO協力センターで行われたが、全部で38例の感染疑い(suspected)患者が報告されている。この2日間に新たな患者発生は報告されていない。保健省では、死亡した動物の死骸の迅速な処分、蚊の成虫やボウフラに対する殺虫剤噴霧の強化などの対策を行っている。感染地域では、市民に対して病気になったり死んだ動物の取り扱い方法や蚊による刺咬をさける方法について保健教育が行われている。隣国のイエメンではサウジアラビアとの国境地帯にサーベイランス強化のため専門家チームを派遣した。イエメンでは症例の報告はない。この報告以前には、リフトバレー熱の発生はアフリカ大陸に限局していた。

イスラエルでの西ナイルウイルス感染症流行

WHO/CSR 2000年9月22日

イスラエル保健省は9月19日までに、76例の入院患者と12例の死亡を含む西ナイルウイルス患者151例を報告した。保健省は蚊の発生源への殺虫剤の空中散布や地上からの散布を含む抑制対策を実施している。

エコチャレンジ参加者に発症したレプトスピラ症(続報)- フランス、カナダ

WHO/CSR 2000年9月21日

フランス:フランスで、エコチャレンジのスポーツイベントに関連して4例のレプトスピラ症が報告された。4例のうち1例が検査室診断で確認された。

カナダ:9月21日現在、同イベントに関連した6例のレプトスピラ症疑い(suspected)患者がカナダで報告された。疑い患者6例のうち2例が検査室診断で確認された。

鉢植えの土に関連したレジオネラ症 アメリカ

MMWR 2000年9月1日

レジオネラ症は、1976年に最初に報告されてから、冷却塔、シャワーやその他の噴霧装置によるレジオネラ菌の感染に関連して流行が報告されている。しかしレジオネラ症の散发例の大部分は、感染源や感染経路は特定出来ないことが多い。レジオネラ症の1種である *Legionella longbeachae* の感染がオーストラリアと日本で鉢植えの土を使ったガーデニングに関連して起きている。今回の報告は、アメリカで初めて鉢植えの土によって感染したと思われるレジオネラ症の症例の調査結果の要約である。

2000年6月13日、CDCはワシントンの郡保健担当官から *L. longbeachae* に感染し肺炎で入院している46歳の女性の報告を受けた。彼女は症状の出現する10日前の5月に植物の鉢植えを行

っていた。痰からの分離菌が菌種の同定のためにCDCに送られ、鉢植えの土の2つの検体と住居から見つかった袋詰めのままの1種類の堆肥が分析のため送られ、鉢植えの土の一つから *L. longbeachae* が分離された。堆肥にはほかのレジオネラ菌が含まれていたが、*L. longbeachae* ではなかった。

5月には77歳のオレゴンの女性と45歳のカリフォルニアの男性の気管支洗浄液から *L. longbeachae* が分離され、二人ともレジオネラ症と診断されたという報告がCDCに届いた。カリフォルニアの男性は死亡して、家の清掃がすでに行われたあとであり、調査は出来なかった。オレゴンの女性は、4月に症状が出現する前の10日以内に、一般に売られている混合土を使って家でガーデニングを行っていたことを州と地域の保健担当官が確認した。2つの鉢植えの土の検体が彼女の住居より採取され、レジオネラ菌の検査にCDCに送られ、1つが、*L. longbeachae* が陽性であった。患者と土から分離された *L. longbeachae* はAFPL(増幅制限酵素断片長多型)法により比較されることになるだろう。

MMWR編集記:この調査の結果、レジオネラ症を州や地域の保健担当官に報告することの重要性が示された。尿の抗原検査は *Legionella Pneumophila* 血清型1型の迅速で正確な診断に有用であるのだが、この検査は他の血清型や他の菌種には感受性がない。細菌学検査や疫学的な調査は、あまり一般的でない菌種の同定に必要であり、それらによって、病気感染の危険因子や新たな感染経路が明らかになるかもしれない。

L. pneumophila 血清型1型が、アメリカのレジオネラ症のほとんどの原因菌であり、*L. longbeachae* の報告の頻度は少ない。1990年から1999年までに37例の *L. longbeachae* がCDCのレジオネラ報告システムに報告された。原因不明の肺炎などで適切な検査方法が行われなかったり、レジオネラ菌を臨床検体から培養することが困難であったり、レジオネラ症は届け出疾患になっていない州もあるので、レジオネラ症がCDCに未報告例もありうる。

アメリカで土の検査は行われていないが、オーストラリアの土の調査では検査された45の鉢植え用の土のうち33(73%)がレジオネラ菌陽性であり、そのうち26(79%)に *L. longbeachae* が含まれていた。ヨーロッパと英国では検査されたすべての土(19)が、*L. longbeachae* 陰性であった。日本で行われた17の土の検査で31種類のレジオネラ菌が見つかり、8(47%)で *L. longbeachae* が確認された。



感染症の話

(注)今週の感染症の話は編集の都合上、前号と同じものを掲載しました。-IDWR編集委員長-

薬剤耐性緑膿菌(drug-resistant *Pseudomonas aeruginosa*)感染症

緑膿菌(*Pseudomonas aeruginosa*)は、水まわりなど生活環境中に広く常在するが、健常者には通常、病原性を示さない弱毒細菌の一つである。ペニシリンやセファゾリンなどの第一世代セフェム薬に自然耐性を示し、テトラサイクリン系やマクロライド系抗生物質などの抗菌薬にも耐性を示す傾向が強く、古くより、感染防御能力の低下した患者において、術後感染症などの日和見感染症の起原菌として問題となってきた。最近、緑膿菌に効果が期待されるセフスロジン、セフトラジウムなどのβラクタム薬のみならずイミペネムなどのカルバペネム系薬やシプロフロキサシン、レボフロキサシンなどのフルオロキノロン系抗菌薬、さらにアミカシンなどのアミノ配糖体系抗生物質などに幅広く耐性を獲得した臨床分離株が、散発的ではあるが各地の医療施設で臨床分離されるようになり、「多剤耐性緑膿菌」としてその動向が警戒されている。

病原体

[緑膿菌について]

(1)菌の特徴

細菌学的には、大腸菌や肺炎桿菌と同じくグラム陰性桿菌に分類されるが、ブドウ糖を発酵できない点などでそれらとは区別される。近縁の菌種として、蛍光菌(*P. fluorescens*)や *P. putida* などがある。ピオシアニン、ピオベルジン、ピオルピン、ピオメラニンなどの色素を産生し、また、o-アセトアミノフェンの産生により、甘酸っぱい特有の強い臭気を発する。

(2)菌の病原性

典型的な日和見病原細菌の一つであり、健常者には無害である。しかし、グラム陰性桿菌でありエンドトキシンを産生するため、何らかの原因で血液中に侵入し、菌血症や敗血症を引き起こすと、エンドトキシンショックが誘発され、多臓器不全により死亡することがある。その他、エキソエンザイム(GTP-結合蛋白のADP-リボシル化酵素)やエキソトキシンA(蛋白合成に重要な役割を果たす伸長因子(EF-2)のADP-リボシル化による阻害)、さらに、コラゲナーゼ、フィブリノリジン、ホスホリパーゼなどの各種有害酵素を産生し、褥創などでは感染部位の細胞や組織を傷害する。

(3)薬剤耐性機構

染色体上に存在するampC遺伝子に依存して、セファロスポリナーゼ(AmpC)を産生し、アンピシリンなどのペニシリン系抗生物質やセファロリジン、セファロチン、セファゾリンなどの初期のセファロスポリン系抗生物質に生来耐性を示す。また、臨床分離される株の大半が、修飾不活化酵素の産生や薬剤排出機構によりエリスロマイシン、クリンダマイシン、ミノサイクリンなどにも耐性を示す。一方、プラスミド依存性にゲンタミシンやアミカシンなどのアミノ配糖体系抗生物質の修飾不活化酵素を産生し、これらに耐性を示すものがある。さらに、染色体上に存在するDNAジャイレースやトポイソメラーゼの遺伝子に変異し、シプロフロキサシンやレボフロキサシンなどのフルオロキノロン系抗菌薬に耐性を獲得した株も多くなっている。

一方、大腸菌などの他の細菌に比べ、緑膿菌では抗菌薬が細菌の膜を透過し菌体内に侵入する効率が低いため、抗菌薬が効きにくいと言われて来た。さらに、菌体内へ侵入した抗菌薬を菌対外へ排出する機構(能動排出ポンプ、active efflux pump)などの関与により、各種の抗菌薬や消毒薬に対し、より耐性を獲得しやすいと言われている。

[緑膿菌の薬剤耐性獲得の歴史]

緑膿菌は、従来より各種の抗菌薬に耐性を示す傾向が強く、日和見感染症の起因細菌として臨床現場で問題となっていた。わが国では、1970年に緑膿菌に有効な抗菌薬としてゲンタマイシン(GM)が認可された。しかし、間もなく、GMに耐性を示す臨床分離菌が出現し、GM耐性菌にも有効なアミノ配糖体としてアミカシン(1977)やイセパマイシン(1988)が開発されて来た。一方、緑膿菌は、染色体依存性に産生するハセファロスポリナーゼ(AmpC)により、ペニシリンやセファゾリンなどの初期のセファロスポリンに自然耐性を示すため、この酵素に安定なβ-ラクタム薬として、ピペラシリン(1980)、セフスロジン(1980)、セフトジジム(1986)などが次々と開発され、臨床に投入されてきた。さらに、チエナム(1987)などのカルバペネム系抗菌薬も開発され、緑膿菌感染症に対し強力な援軍となった。他方、シプロフロキサシン(1988)やレボフロキサシン(1993)などのフルオロキノロン系薬も相次いで開発されるなど、緑膿菌による急性感染症は、化学療法によるコントロール可能な事例も多いと考えられ、1980年代からのMRSAの出現と蔓延の中で、ともするとその危険性が軽視され忘れられがちとなっていた。

しかし、1970年代後半からプラスミド依存性にアミカシンに耐性を獲得した緑膿菌が内外で出現し、さらに、1980年代の後半にはイミペネムをはじめ広範な広域β-ラクタム薬に耐性を示す緑膿菌がわが国で出現するなど、緑膿菌感染症に対する化学療法の有効性が揺らぎはじめています。

現在、臨床分離される緑膿菌の数%がアミカシンに耐性を獲得しており、一方、イミペネムなどのカルバペネム薬に耐性を獲得した緑膿菌は、約2割に及ぶとされている。また、レボフロキサシン、シプロフロキサシンなどのフルオロキノロン薬に耐性を獲得した緑膿菌も2割程度を占めるのが一般的な状況となっている。イミペネム耐性菌では、ニューキノロンやアミノ配糖体に同時に耐性を獲得した株も散見されている。

[緑膿菌とカルバペネム耐性]

イミペネム、パニペネム、メロペネムなどのカルバペネム系薬は、緑膿菌にも強い抗菌活性を示すため、現在、臨床現場で賞用されている。しかし、現時点で臨床分離される緑膿菌の中で、イミペネムに耐性を獲得した株の割合は2割程度に及んでいる。イミペネム耐性の機構としては、イミペネムが細菌の外膜を通過し、ペリプラズム間隙に到達する際の透過孔と言われているD2ポリリン蛋白の減少が指摘されている。しかし、この変化による耐性度の上昇は、MIC値で精々16 μg/ml程度であり、それ以上の高度耐性には、IMP-1メタロβ-ラクタマーゼの産生が関与している。IMP-1産生株は、緑膿菌に有効なセフトジジムなどのオキシイミノβ-ラクタム薬(=第三世代セファロスポリン)のみならずカルバペネム系薬に至るまで広範囲のβ-ラクタム薬に耐性を獲得する。現時点では、わが国でのIMP-1産生菌の割合は1%程度と推定されているが、最近、海外でも類似のメタロβ-ラクタマーゼを産生する株が分離されるようになり、その動向が国際的に警戒されつつある。

[緑膿菌による血流感染症]

(1) 内因性感染症

癌などの悪性消耗性疾患などの末期には、腸管内などに棲息する菌が、腸管の膜を通過し血液中に侵入することで、しばしば菌血症や敗血症などを続発する。このような事態は、患者の感染防御能力の低下に伴うものであり、防ぐことが困難な場合も多い。

また、高齢者の慢性呼吸器疾患患者では、口腔や気管内の分泌粘液中に緑膿菌が定着して

いる事も多く、肺炎などが重症化した際に増殖し、2次的に敗血症やエンドトキシンショックなどを続発する事がある。さらに、骨の露出するような重症かつ広範囲の褥創から、菌血症などに発展する場合もある。

(2) 外因性感染症

緑膿菌は、環境中に広く分布する細菌であるため、輸液用の製剤や点滴回路が汚染された場合、人為的に血中に菌が送り込まれる事態も発生しうる。同時多発的に、複数の患者から緑膿菌が分離される場合には、そのような事態も想定し緊急に原因の解明や対策を講じる必要がある。

病原診断

薬剤感受性試験結果に基づく判定

各医療施設において日常的に実施されている同定試験法により、緑膿菌と同定され、かつ、NCCLSの標準法に従い、イミペネム、アミカシン、シプロフロキサシンなどのフルオロキノロン薬の3系統の抗菌薬に対し全て「耐性」と判定された場合(シプロフロキサシンの感受性試験を実施していない場合は、レボフロキサシンなど他のフルオロキノロン系抗菌薬に対する感受性試験結果を代用することができる)。

治療・予防

緑膿菌は、「流し台」などの「水回り」からしばしば分離される常在菌であるため、この菌が、医療施設内の環境を広範囲に汚染しないよう、日常的に病室病棟の清掃や流し台、入浴施設などの清潔や消毒に心掛ける。また、人工呼吸器、ネブライザー、吸痰チューブなどの汚染にも注意し、処置時の手袋の着用などにより、菌の拡散や伝播を抑制する。

緑膿菌は、口腔や腸管内にも棲息する菌であるため、喀痰や便などから少量菌が分離された場合でも、呼吸器感染症などの感染症症状を呈していない場合や感染症の主起因菌となっていない場合には、除菌の目的で積極的な抗菌薬投与は行わない。菌量が多く、しかも、喀痰中などの好中球による貪食像が見られ、気管支炎や肺炎などの主起因菌と考えられる場合や、血液、腹水など無菌的であるべき臨床材料から菌が分離された場合には、遅滞無く、有効性が期待できる抗菌薬による化学療法を実施する。また、「内因性感染症」か「外因性感染症」かの判定を行い、外因的な感染源が想定または特定された場合には、その対策を講じる。

尚、カルバペネム、アミカシン、フルオロキノロンの3系統に耐性を獲得した多剤耐性緑膿菌が分離された場合には、「保菌例」や「定着例」であっても、現時点では、医療施設内での拡散を防止する対策を実施することが望ましい。

感染症法の中での薬剤耐性緑膿菌感染症の取り扱い

薬剤耐性緑膿菌感染症は感染症法では4類感染症に分類され、その発生動向は病院定点からの報告により把握される。報告のための基準(平成11年3月30日厚生省結核感染症課長通知より抜粋)は以下の通りになっている。

当該疾患を疑う症状や所見があり、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断がなされたもの。

・病原体の検出

(1)血液、腹水、胸水、髄液など、通常は無菌的であるべき臨床検体から分離された場合(敗血症・心内膜炎、腹膜炎、胸膜炎、髄膜炎、骨髄炎など)で、以下の検査室での判断基準を満たすもの

(2)喀痰、膿、尿、便など無菌的ではない検体からの分離では、感染症の起因菌と判定された場合(肺炎などの呼吸器感染症、肝・胆道系感染症、創傷感染症、腎盂腎炎・複雑性尿路感染症、扁桃炎、細菌性中耳炎・副鼻腔炎、皮膚・軟部組織感染症など)で、以下の検査室での判断基準を満たすもの

(検査室での判断基準)

以下の3つの条件を全て満たした場合

・イミペネム MIC, 16 μg/ml

または、イミペネムの感受性ディスク(KB)の阻止円の直径が13mm以下

・アミカシンのMIC, 32 μg/ml

または、アミカシンの感受性ディスク(KB)の阻止円の直径が14mm以下

・シプロフロキサシンのMIC, 4 μg/ml

または、シプロフロキサシンの感受性ディスク(KB)の阻止円の直径が15mm以下

(国立感染症研究所細菌血液製剤部 荒川 宜親)



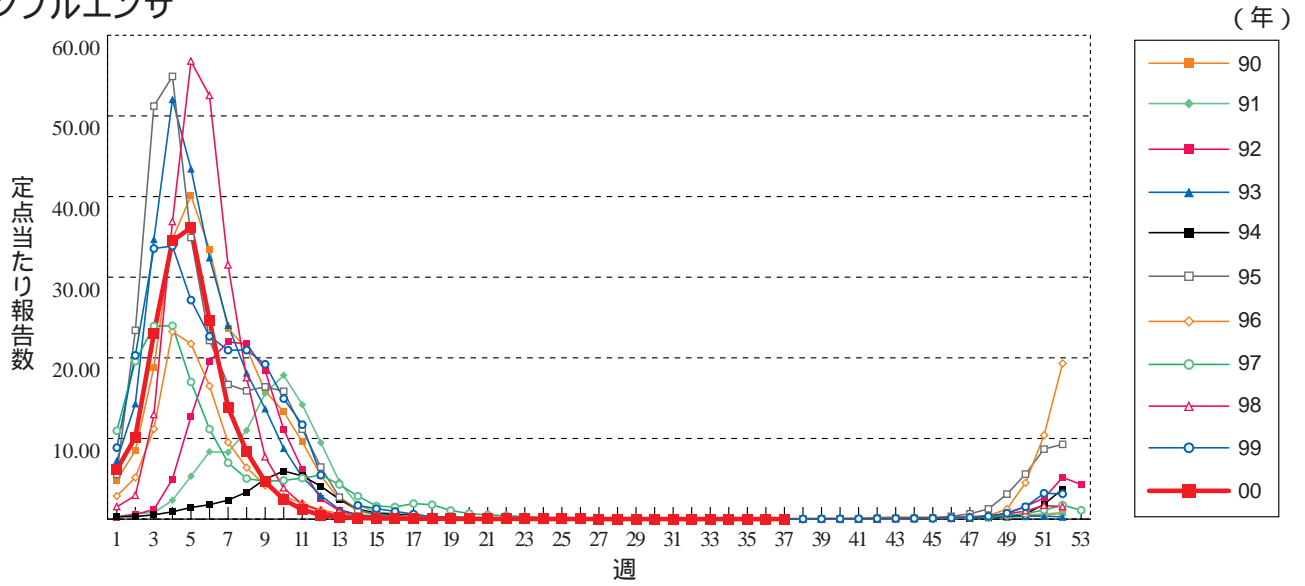
読者のコーナー

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

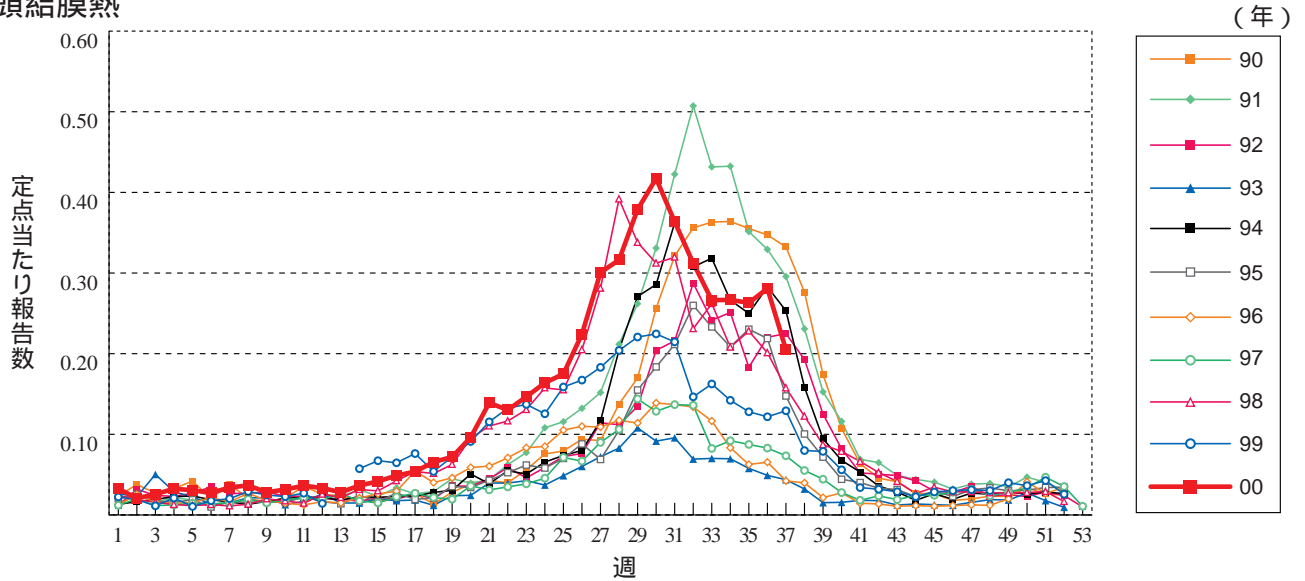
idsc-query@nih.go.jp

グラフ総覧(37週)

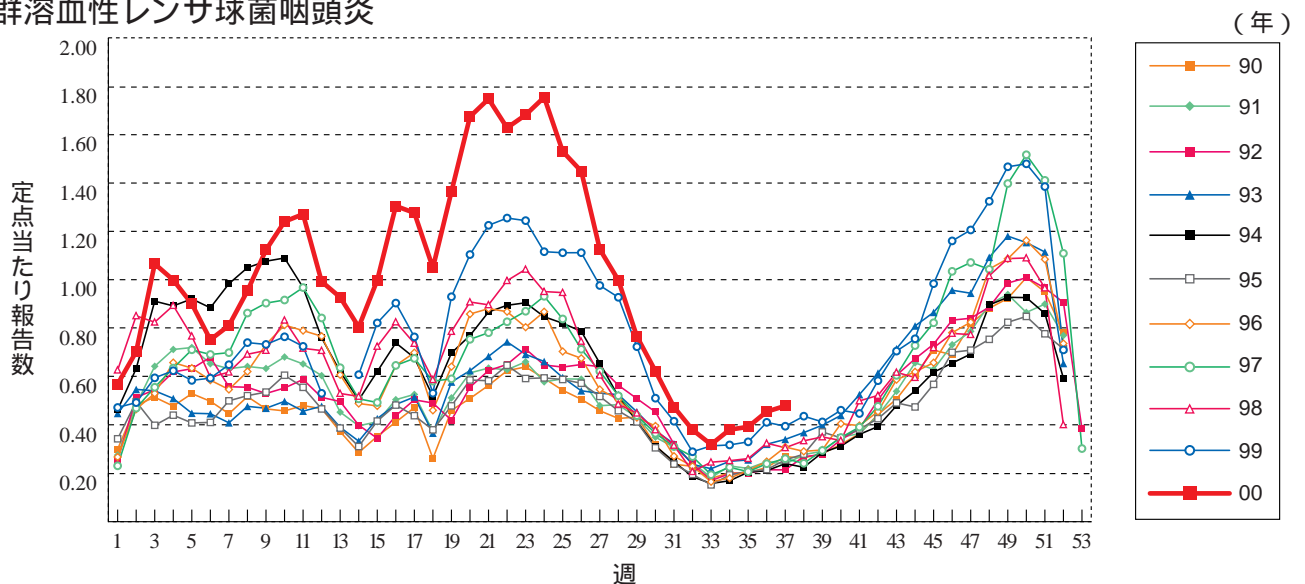
インフルエンザ



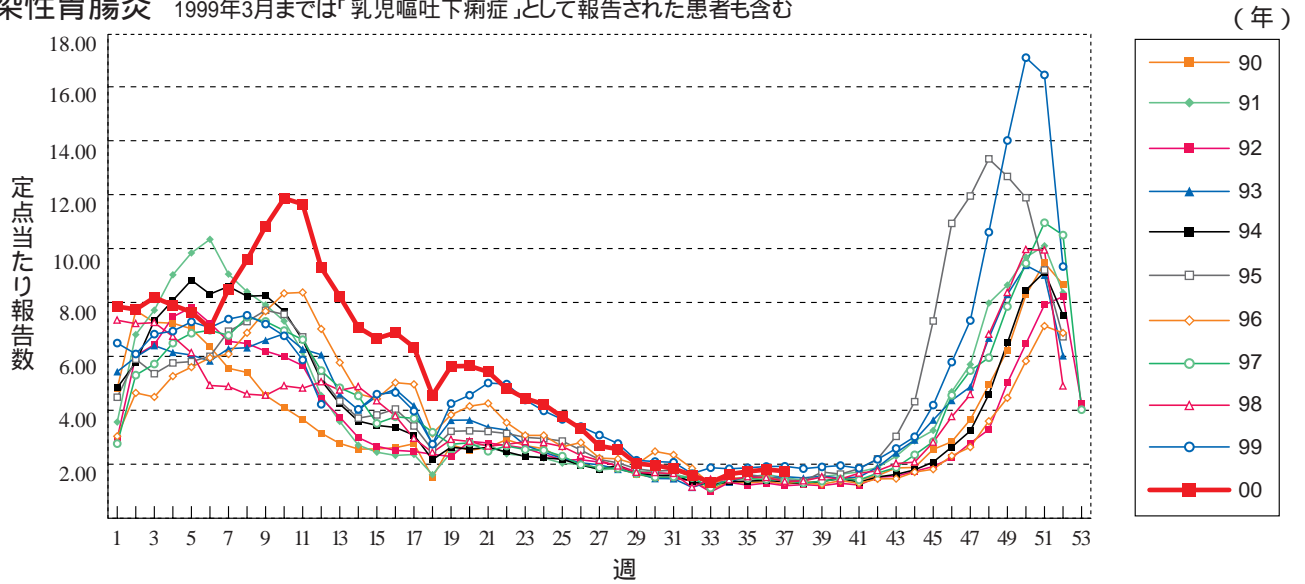
咽頭結膜熱



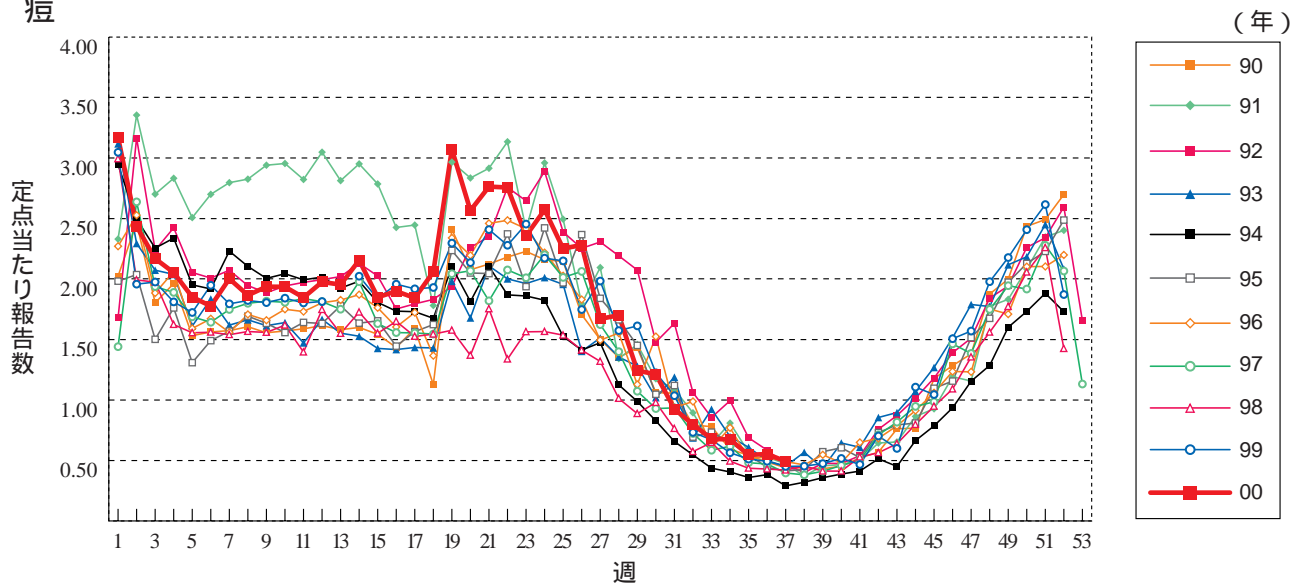
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



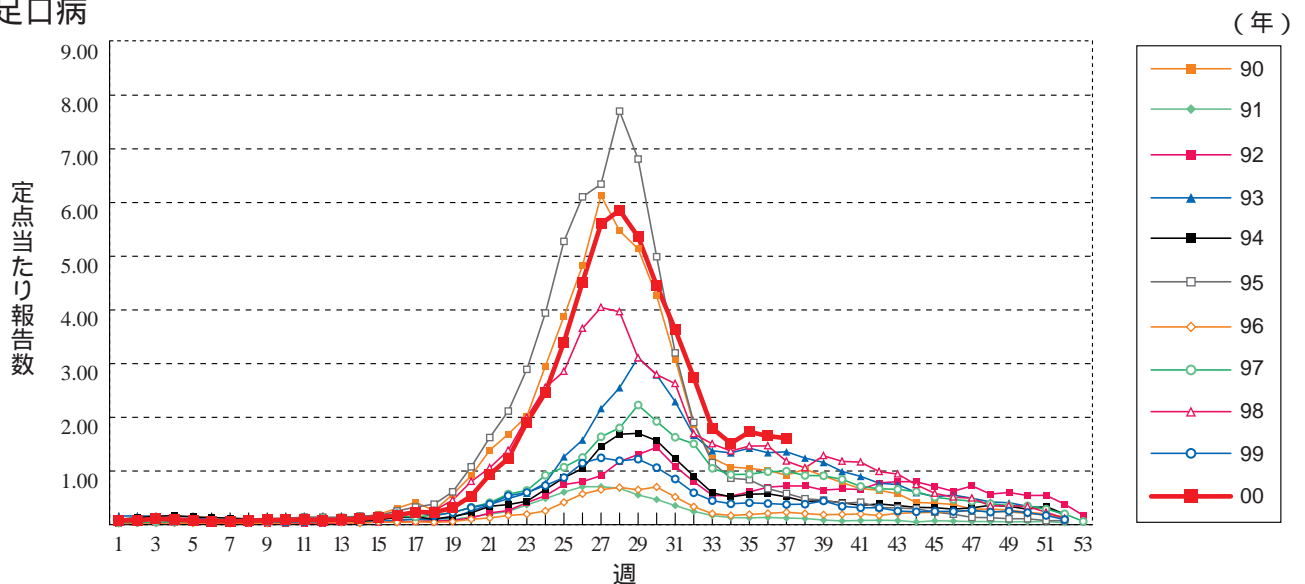
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



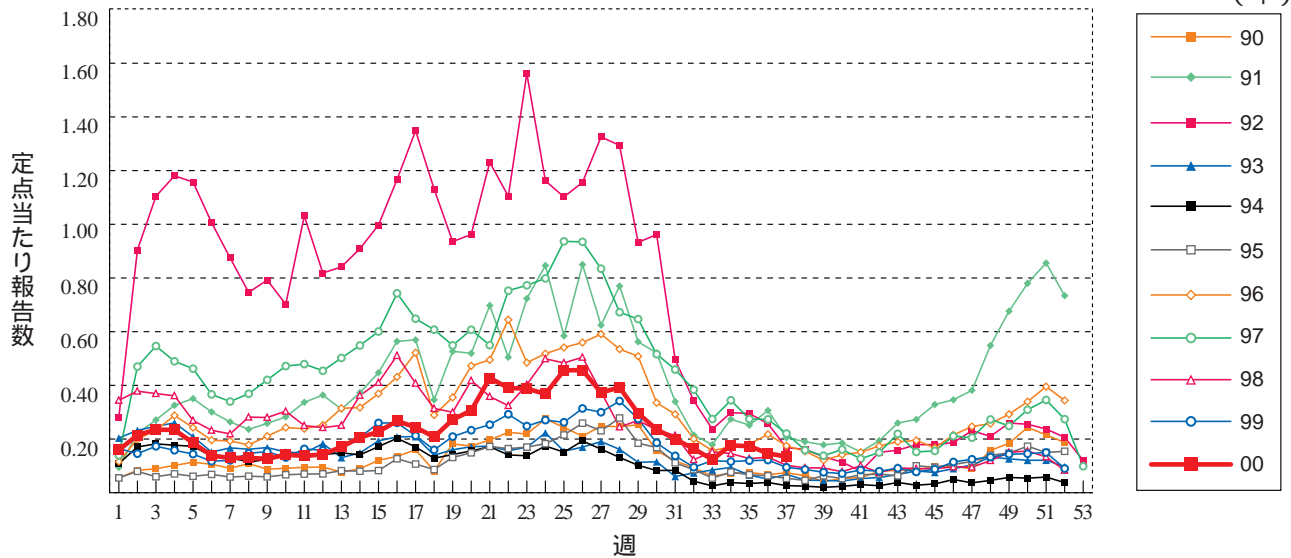
水痘



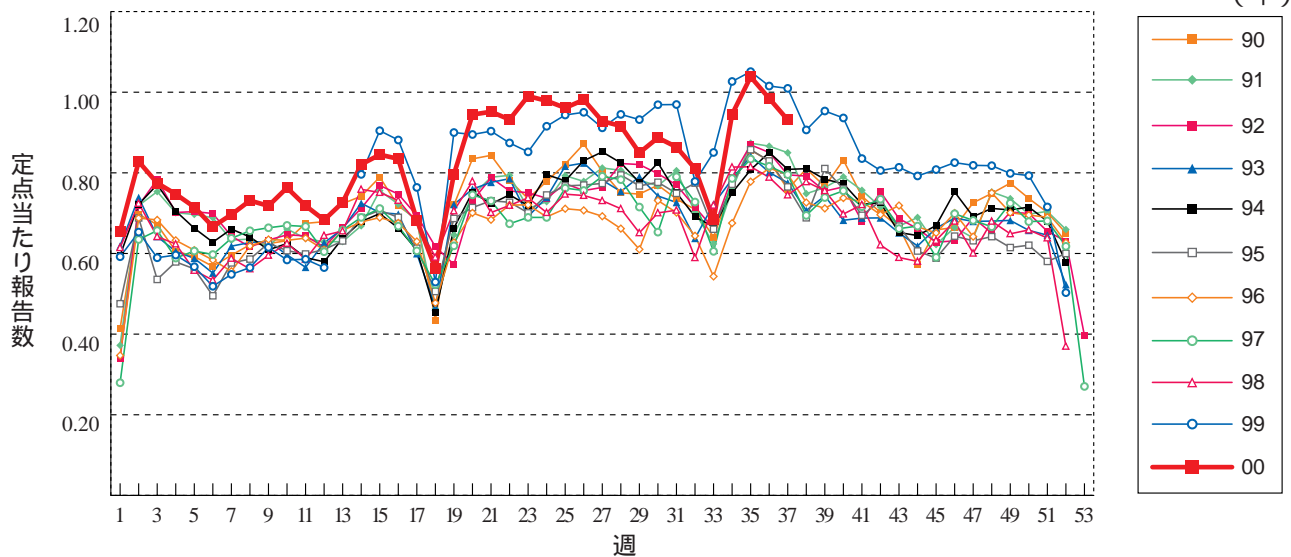
手足口病



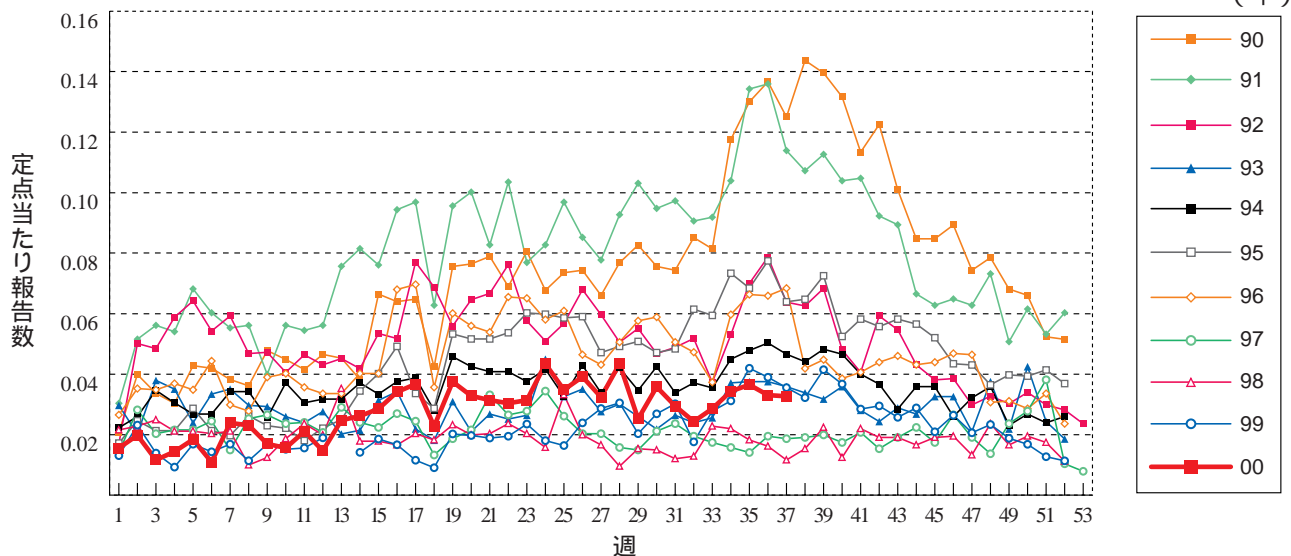
伝染性紅斑



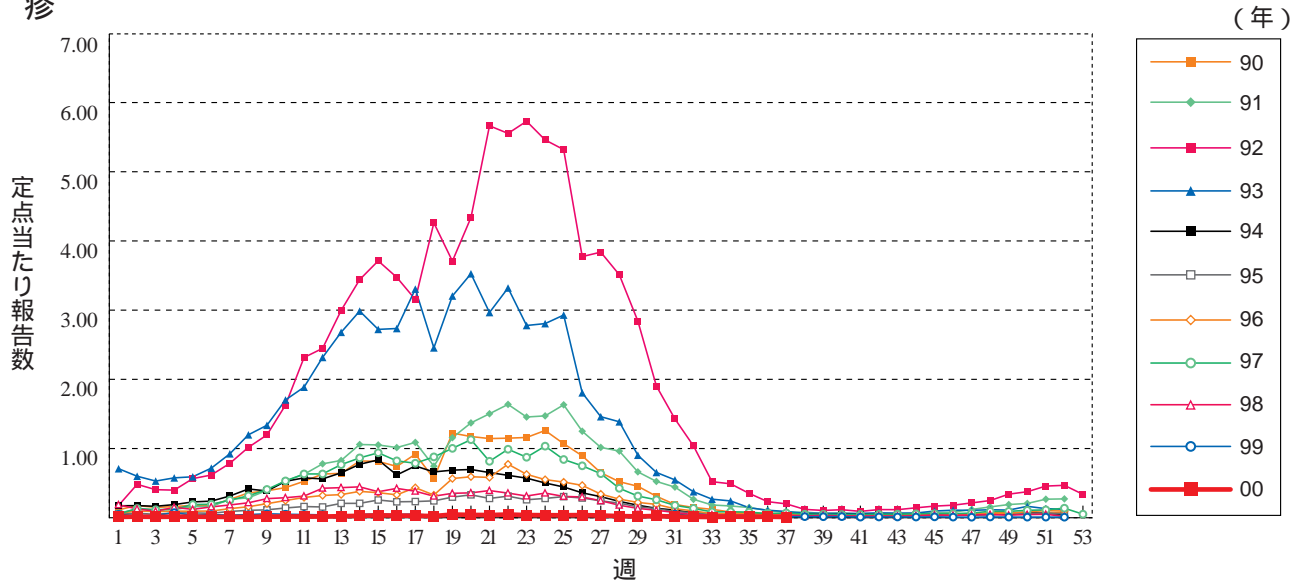
突発性発疹



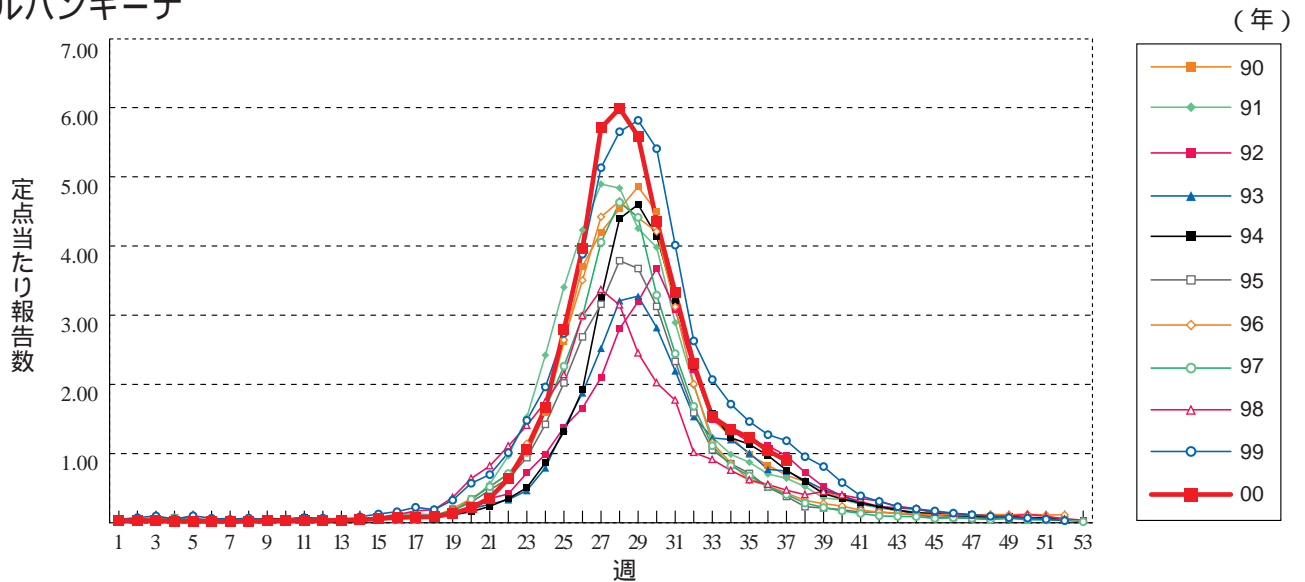
百日咳



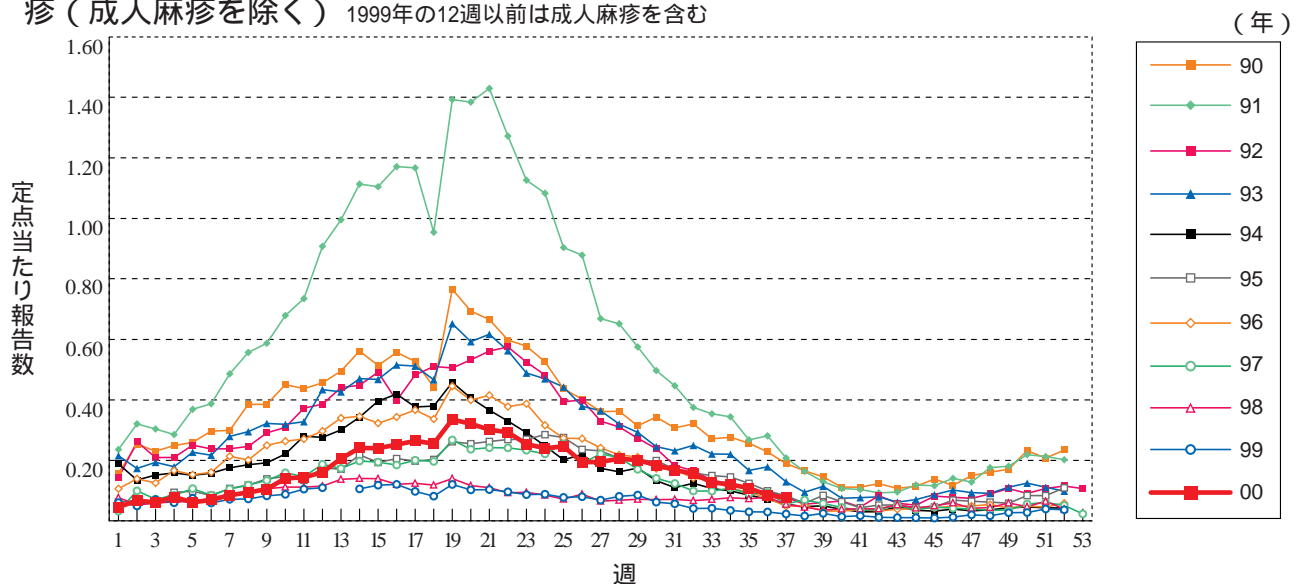
風 疹



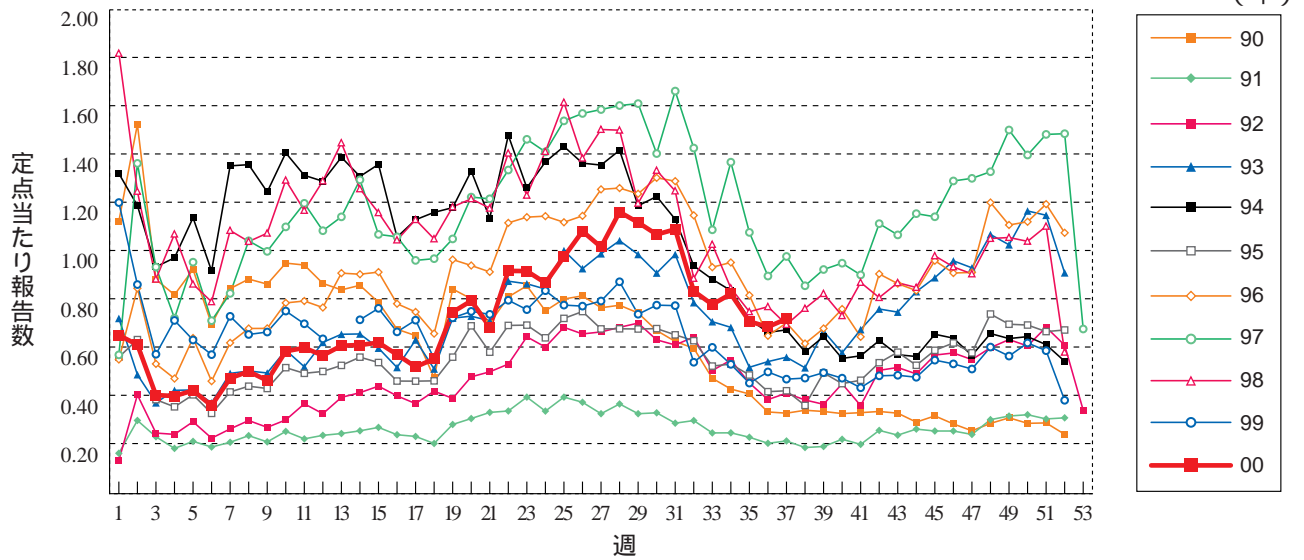
ヘルパンギーナ



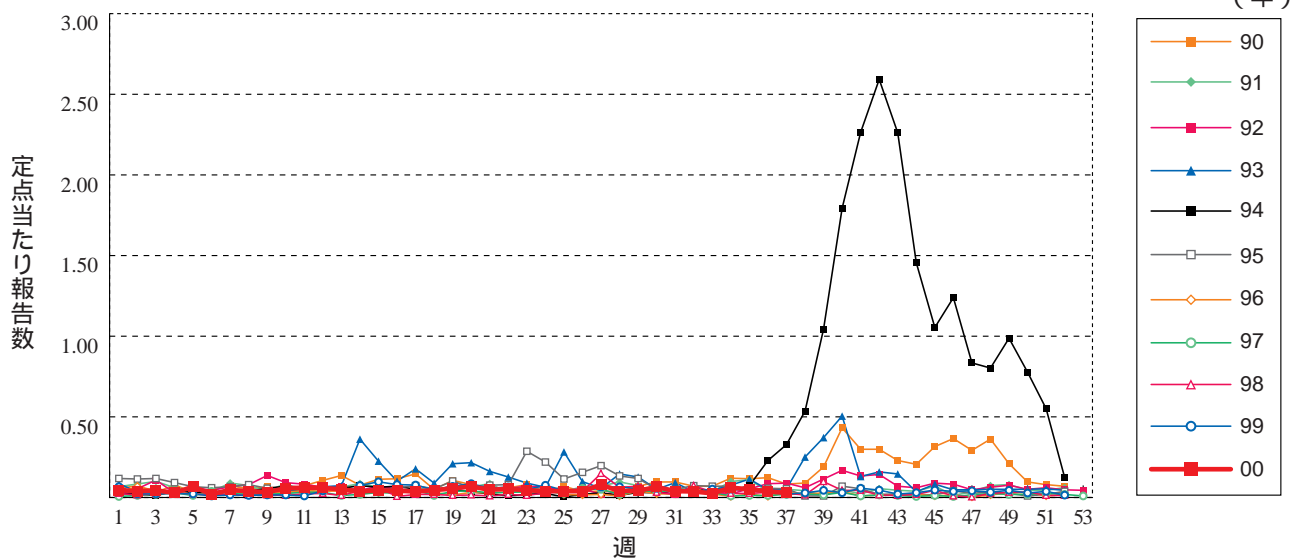
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



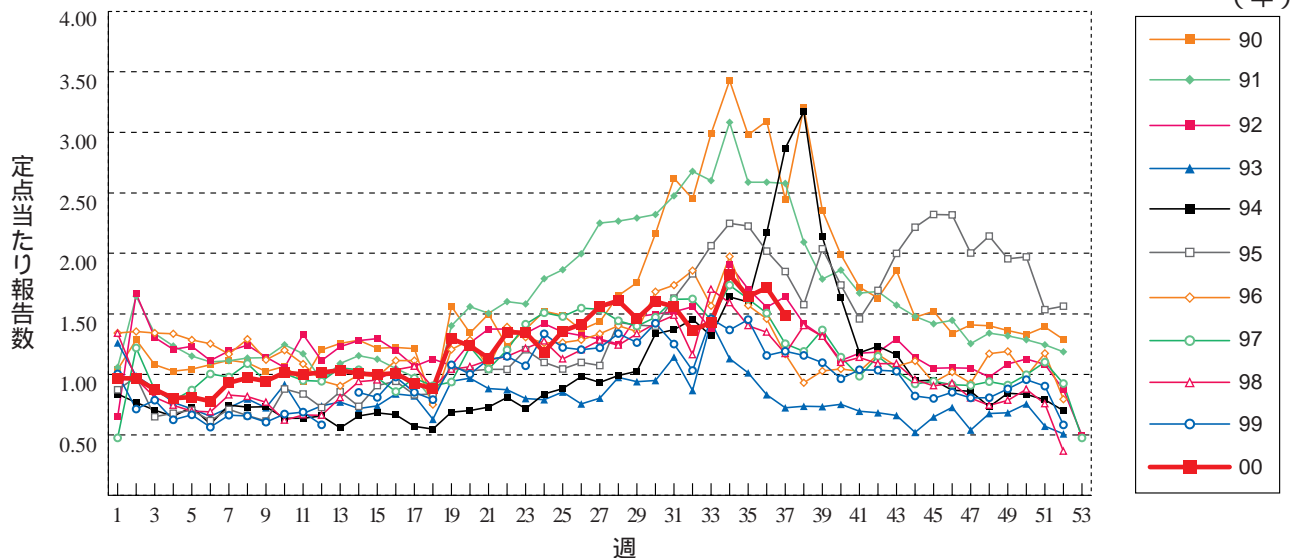
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

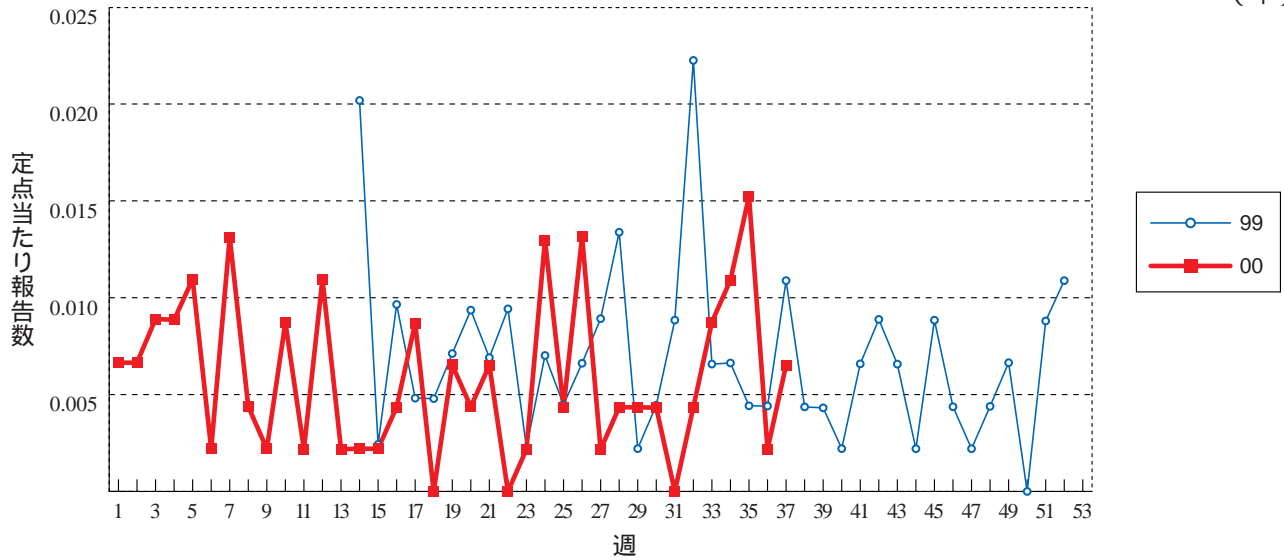


流行性角結膜炎



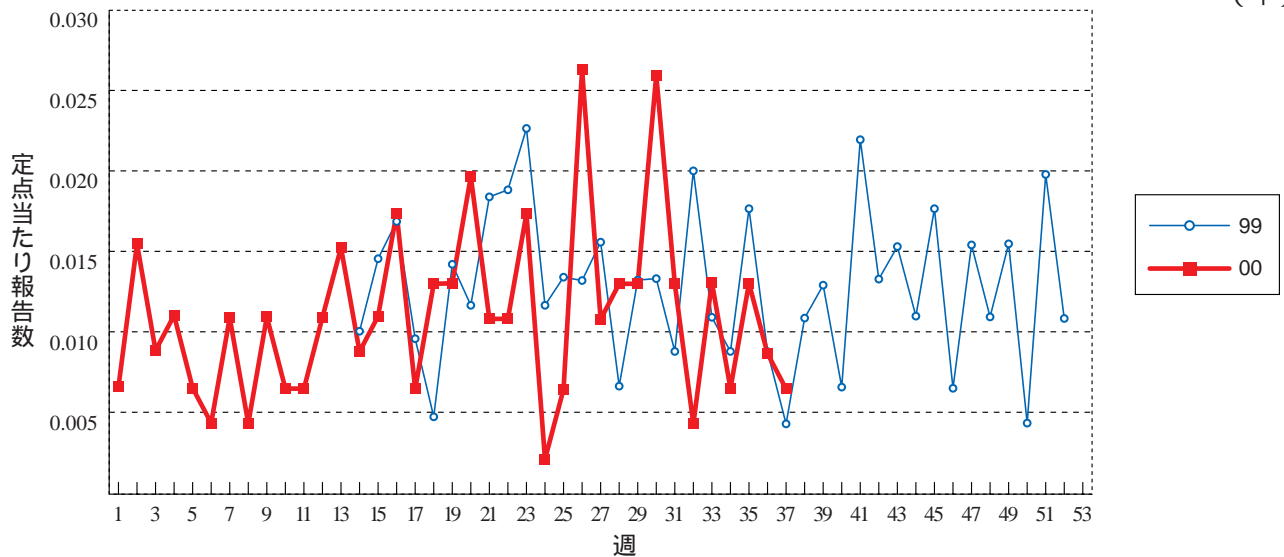
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



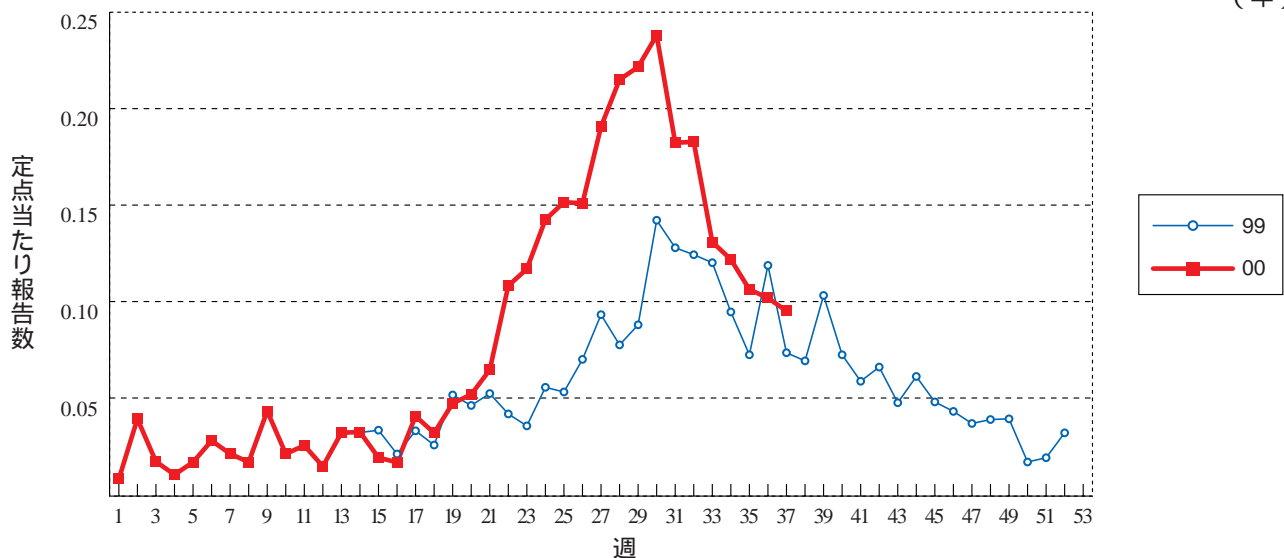
細菌性髄膜炎

(年)



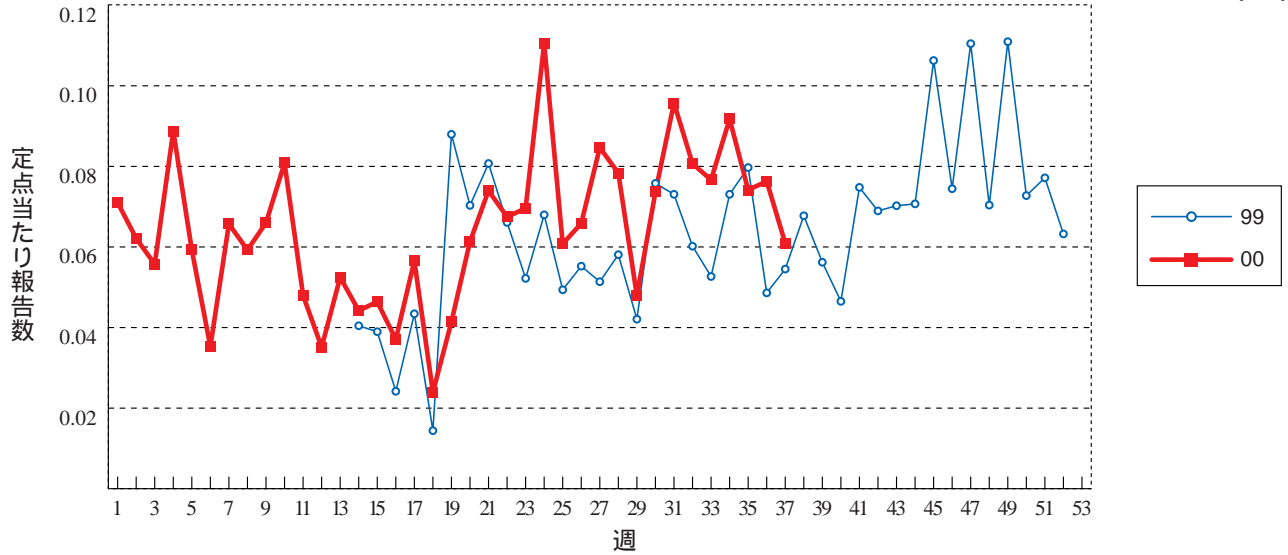
無菌性髄膜炎

(年)



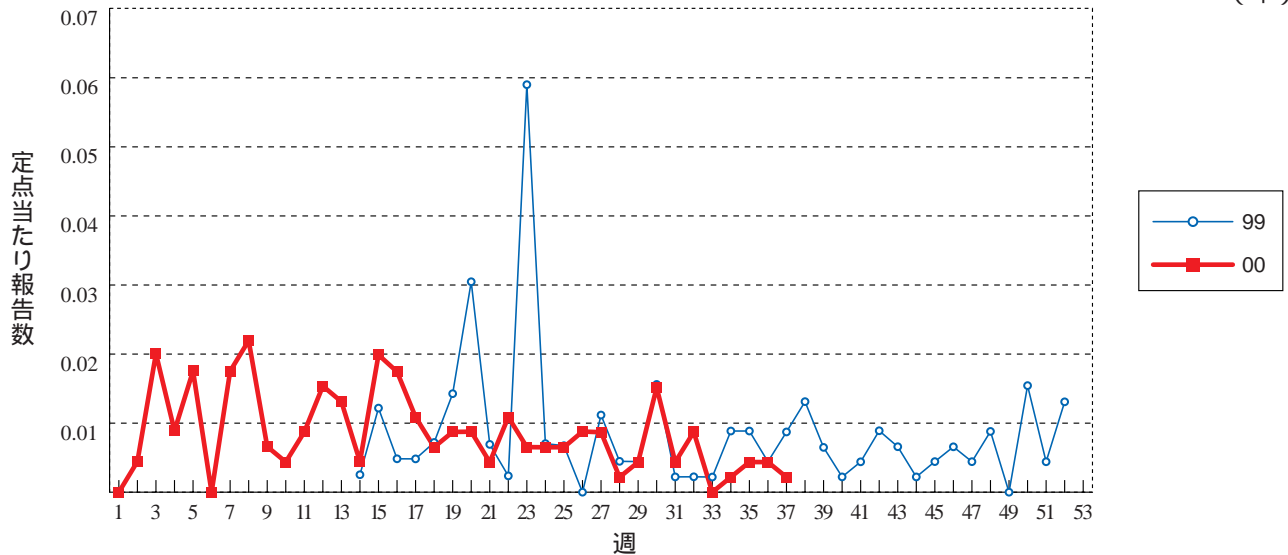
マイコプラズマ肺炎

(年)



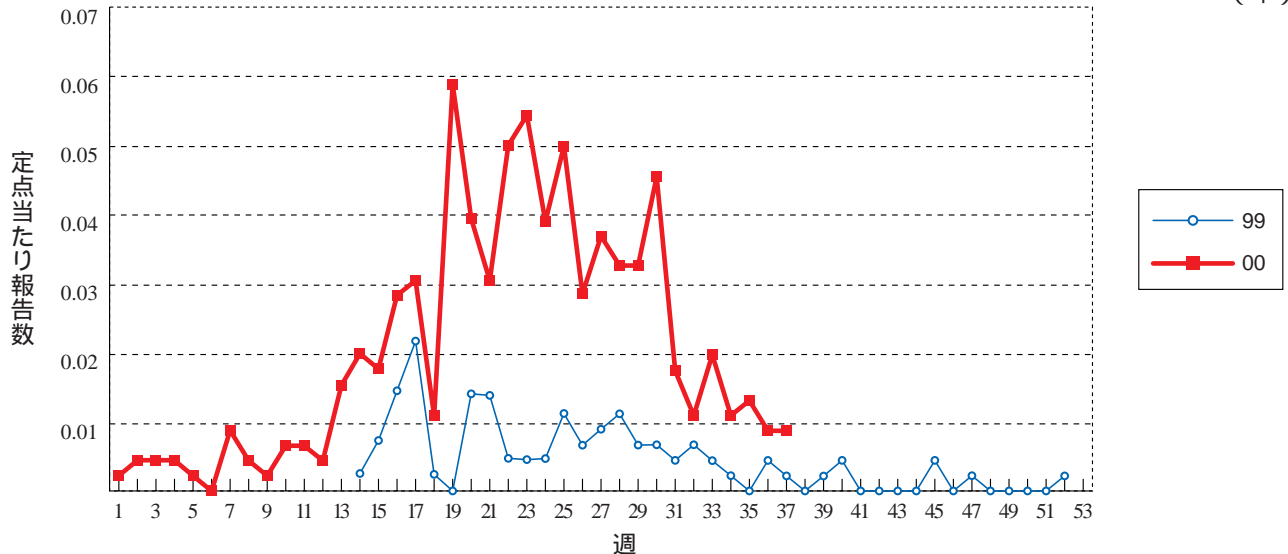
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





37週のデータ

注)表中の報告数は9月22日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成12年37週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		パラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	33	19	527	1	67	1	13
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	16	1	3	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	2	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	-	3	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	5	22	-	4	-	2
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3	100	-	11	1	6
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	34	-	4	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	10	-	1	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	9	-	3	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	35	-	5	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	1	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	19	-	1	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	50	-	7	-	3
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	18	-	7	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	13	-	3	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	1	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	1	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	8	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	5	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	25	-	1	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成12年37週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	
総数	-	1	-	1	146	2521	2	261	-	18	-	-	-	14	-	-	-	9	718
北海道	-	-	-	-	3	80	-	4	-	17	-	-	-	-	-	-	-	-	12
青森県	-	-	-	-	5	34	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
岩手県	-	-	-	-	6	94	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
宮城県	-	-	-	-	5	50	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
秋田県	-	-	-	-	3	44	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
山形県	-	-	-	-	6	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	1	11	-	3	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	3
茨城県	-	-	-	-	2	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
栃木県	-	-	-	1	-	12	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
群馬県	-	-	-	-	2	20	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	21
埼玉県	-	-	-	-	6	72	-	8	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	9
千葉県	-	-	-	-	7	78	1	12	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	12
東京都	-	-	-	-	15	217	-	67	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	78
神奈川県	-	-	-	-	7	143	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	23
新潟県	-	-	-	-	1	15	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-	46	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
石川県	-	-	-	-	2	46	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
福井県	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	13	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
長野県	-	-	-	-	1	22	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	2	18	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
静岡県	-	-	-	-	2	27	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	26
愛知県	-	-	-	-	3	141	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24
三重県	-	-	-	-	1	34	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
滋賀県	-	-	-	-	-	24	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
京都府	-	-	-	-	2	33	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	27
大阪府	-	-	-	-	9	265	-	44	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	85
兵庫県	-	-	-	-	12	142	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	79
奈良県	-	-	-	-	1	18	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
和歌山県	-	-	-	-	1	35	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
鳥取県	-	-	-	-	2	25	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	1	45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	4	61	-	5	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	26
広島県	-	-	-	-	1	93	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
山口県	-	-	-	-	1	29	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
徳島県	-	-	-	-	-	8	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30
香川県	-	-	-	-	3	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
愛媛県	-	-	-	-	3	21	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21
高知県	-	-	-	-	-	7	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
福岡県	-	-	-	-	17	201	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30
佐賀県	-	-	-	-	3	32	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	2	21	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
大分県	-	-	-	-	1	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
宮崎県	-	1	-	-	1	32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
鹿児島県	-	-	-	-	-	37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
沖縄県	-	-	-	-	2	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成12年37週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプトスボルジウム症		クロイツフェルト・ヤコブ病		劇症型溶血性レンサ球菌感染症		後天性免疫不全症候群		コクシジオイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	8	-	-	-	3	-	67	1	36	4	517	-	1	1	67	-	-
北海道	-	6	-	-	-	-	-	2	-	1	-	7	-	-	-	2	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	34	-	-	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	13	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	8	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	-	25	-	-	-	4	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	2	-	3	-	3	2	43	-	-	-	2	-	-
東京都	-	-	-	-	-	1	-	8	-	2	-	206	-	1	-	12	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	3	-	33	-	-	1	8	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	7	-	-	-	3	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	3	-	2	1	15	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	3	-	13	-	-	-	2	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	5	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	32	-	-	-	8	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	6	1	5	-	13	-	-	-	7	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	8	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成12年37週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風疹 症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児 ボツリヌス症		梅 毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	10	-	1	-	-	-	216	-	12	-	20	1	3	-	-	4	534
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
青森県	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
山形県	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	14
千葉県	-	2	-	-	-	-	-	9	-	-	-	6	-	-	-	-	-	19
東京都	-	1	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	2	81
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	21
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
大阪府	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	92
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	6	-	-	-	-	1	33
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	6
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	5
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	3	-	-	-	-	-	3
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	18
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-	-	-	3
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	45
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
大分県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	1	-	-	-	-	-	24	-	-	-	1	-	-	-	-	-	10
沖縄県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成12年37週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	1	69	-	22	-	-	-	-	-	-	-	-	2	113	-	9	1	119
北海道	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	9	-	-
青森県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27
栃木県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	3
群馬県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3
千葉県	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	3
東京都	-	5	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	1	48	-	-	-	7
神奈川県	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	2
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
岐阜県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	27
愛知県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	5
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
京都府	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
大阪府	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	3
兵庫県	-	5	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
奈良県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
島根県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
山口県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
愛媛県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福岡県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
佐賀県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
熊本県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	1	8	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成12年37週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	54	0.01	615	0.21	1435	0.48	5261	1.75	1477	0.49	4817	1.61	403	0.13	2793	0.93	98	0.03
北海道	-	-	4	0.03	98	0.68	185	1.28	66	0.46	452	3.12	20	0.14	119	0.82	4	0.03
青森県	-	-	1	0.02	28	0.68	37	0.90	32	0.78	152	3.71	8	0.20	17	0.41	4	0.10
岩手県	1	0.02	2	0.05	13	0.34	26	0.68	12	0.32	65	1.71	4	0.11	30	0.79	1	0.03
宮城県	1	0.01	-	-	41	0.69	146	2.47	16	0.27	96	1.63	11	0.19	95	1.61	4	0.07
秋田県	-	-	7	0.20	10	0.29	62	1.77	16	0.46	21	0.60	1	0.03	24	0.69	-	-
山形県	-	-	3	0.10	18	0.60	57	1.90	19	0.63	105	3.50	10	0.33	25	0.83	-	-
福島県	-	-	10	0.21	17	0.35	100	2.08	25	0.52	80	1.67	7	0.15	43	0.90	7	0.15
茨城県	2	0.02	12	0.17	43	0.60	157	2.18	27	0.38	93	1.29	9	0.13	41	0.57	1	0.01
栃木県	-	-	1	0.02	21	0.47	60	1.33	8	0.18	103	2.29	-	-	41	0.91	-	-
群馬県	-	-	2	0.03	55	0.89	112	1.81	24	0.39	41	0.66	7	0.11	48	0.77	1	0.02
埼玉県	8	0.03	20	0.13	108	0.68	364	2.27	66	0.41	276	1.73	33	0.21	166	1.04	3	0.02
千葉県	-	-	14	0.11	71	0.54	142	1.08	53	0.40	248	1.88	20	0.15	126	0.95	7	0.05
東京都	1	0.01	12	0.08	29	0.20	224	1.58	43	0.30	190	1.34	20	0.14	92	0.65	2	0.01
神奈川県	10	0.03	12	0.06	55	0.27	270	1.32	68	0.33	175	0.85	50	0.24	205	1.00	1	0.00
新潟県	-	-	6	0.10	37	0.62	98	1.63	46	0.77	96	1.60	7	0.12	79	1.32	5	0.08
富山県	-	-	7	0.24	31	1.07	59	2.03	9	0.31	90	3.10	-	-	26	0.90	1	0.03
石川県	1	0.02	6	0.21	12	0.41	99	3.41	15	0.52	82	2.83	-	-	17	0.59	1	0.03
福井県	-	-	-	-	16	0.76	60	2.86	19	0.90	73	3.48	1	0.05	16	0.76	1	0.05
山梨県	3	0.07	3	0.12	10	0.40	34	1.36	8	0.32	58	2.32	1	0.04	11	0.44	-	-
長野県	-	-	56	1.08	31	0.60	108	2.08	31	0.60	249	4.79	7	0.13	52	1.00	-	-
岐阜県	1	0.01	4	0.08	25	0.47	81	1.53	25	0.47	73	1.38	6	0.11	31	0.58	1	0.02
静岡県	-	-	25	0.29	28	0.33	207	2.41	27	0.31	195	2.27	7	0.08	95	1.10	3	0.03
愛知県	-	-	11	0.06	77	0.42	259	1.42	86	0.47	304	1.67	60	0.33	171	0.94	9	0.05
三重県	-	-	14	0.31	23	0.51	139	3.09	38	0.84	119	2.64	8	0.18	45	1.00	1	0.02
滋賀県	-	-	6	0.20	31	1.03	26	0.87	14	0.47	38	1.27	4	0.13	24	0.80	2	0.07
京都府	1	0.01	7	0.09	29	0.38	139	1.83	43	0.57	72	0.95	5	0.07	56	0.74	1	0.01
大阪府	2	0.01	65	0.34	74	0.39	253	1.32	89	0.47	82	0.43	10	0.05	165	0.86	8	0.04
兵庫県	1	0.01	59	0.44	43	0.32	244	1.83	80	0.60	218	1.64	12	0.09	144	1.08	3	0.02
奈良県	-	-	2	0.06	5	0.14	75	2.14	28	0.80	26	0.74	-	-	33	0.94	1	0.03
和歌山県	-	-	25	0.81	6	0.19	22	0.71	29	0.94	31	1.00	1	0.03	19	0.61	-	-
鳥取県	-	-	7	0.37	36	1.89	59	3.11	5	0.26	97	5.11	1	0.05	18	0.95	-	-
島根県	-	-	6	0.26	2	0.09	38	1.65	11	0.48	75	3.26	1	0.04	7	0.30	-	-
岡山県	-	-	28	0.52	16	0.30	76	1.41	32	0.59	43	0.80	-	-	68	1.26	2	0.04
広島県	1	0.01	30	0.40	36	0.48	117	1.56	23	0.31	90	1.20	11	0.15	63	0.84	2	0.03
山口県	-	-	6	0.12	38	0.78	79	1.61	32	0.65	108	2.20	4	0.08	62	1.27	2	0.04
徳島県	-	-	39	1.70	1	0.04	44	1.91	15	0.65	17	0.74	2	0.09	24	1.04	1	0.04
香川県	-	-	10	0.31	8	0.25	40	1.25	21	0.66	29	0.91	7	0.22	29	0.91	5	0.16
愛媛県	-	-	27	0.69	21	0.54	114	2.92	26	0.67	23	0.59	1	0.03	42	1.08	3	0.08
高知県	-	-	14	0.45	11	0.35	18	0.58	8	0.26	62	2.00	1	0.03	21	0.68	1	0.03
福岡県	-	-	1	0.01	27	0.34	244	3.09	49	0.62	33	0.42	18	0.23	65	0.82	3	0.04
佐賀県	-	-	1	0.04	9	0.39	21	0.91	11	0.48	8	0.35	4	0.17	42	1.83	1	0.04
長崎県	1	0.01	-	-	11	0.25	59	1.34	23	0.52	14	0.32	3	0.07	40	0.91	-	-
熊本県	2	0.02	11	0.22	24	0.49	108	2.20	43	0.88	39	0.80	4	0.08	73	1.49	2	0.04
大分県	-	-	15	0.42	33	0.92	88	2.44	40	1.11	128	3.56	5	0.14	51	1.42	1	0.03
宮崎県	1	0.02	17	0.46	31	0.84	154	4.16	39	1.05	110	2.97	9	0.24	53	1.43	1	0.03
鹿児島県	11	0.11	4	0.07	21	0.35	143	2.38	14	0.23	18	0.30	1	0.02	66	1.10	2	0.03
沖縄県	6	0.10	3	0.09	25	0.74	14	0.41	23	0.68	20	0.59	2	0.06	13	0.38	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成12年37週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	31	0.01	2692	0.90	227	0.08	2167	0.72	18	0.03	939	1.49	3	0.01	3	0.01	44	0.10
北海道	1	0.01	205	1.41	5	0.03	127	0.88	1	0.03	20	0.69	-	-	-	-	12	0.52
青森県	-	-	85	2.07	1	0.02	41	1.00	-	-	10	0.91	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	31	0.82	-	-	8	0.21	-	-	5	0.42	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	82	1.39	4	0.07	13	0.22	-	-	3	0.27	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	69	1.97	-	-	13	0.37	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	76	2.53	-	-	6	0.20	-	-	4	0.50	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	107	2.23	-	-	6	0.13	-	-	14	1.17	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	23	0.32	4	0.06	32	0.44	-	-	113	7.06	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	10	0.22	1	0.02	8	0.18	-	-	11	0.92	1	0.17	-	-	-	-
群馬県	-	-	17	0.27	-	-	103	1.66	-	-	26	1.86	-	-	-	-	4	0.40
埼玉県	-	-	60	0.38	2	0.01	159	0.99	-	-	60	1.67	-	-	-	-	-	-
千葉県	1	0.01	45	0.34	7	0.05	104	0.79	2	0.06	55	1.57	1	0.08	-	-	-	-
東京都	4	0.03	56	0.39	12	0.08	85	0.60	1	0.07	26	1.86	-	-	-	-	5	0.20
神奈川県	2	0.01	87	0.42	10	0.05	196	0.96	-	-	78	1.86	-	-	-	-	3	0.27
新潟県	-	-	66	1.10	-	-	54	0.90	-	-	3	0.33	-	-	-	-	1	0.08
富山県	-	-	138	4.76	-	-	3	0.10	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.20
石川県	1	0.03	28	0.97	1	0.03	4	0.14	-	-	10	1.43	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	28	1.33	1	0.05	23	1.10	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	20	0.80	1	0.04	14	0.56	-	-	-	-	1	0.10	-	-	-	-
長野県	-	-	185	3.56	1	0.02	12	0.23	1	0.10	10	1.00	-	-	-	-	2	0.18
岐阜県	-	-	23	0.43	3	0.06	36	0.68	-	-	15	1.25	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.01	73	0.85	5	0.06	95	1.10	1	0.05	20	0.95	-	-	-	-	-	-
愛知県	4	0.02	79	0.43	6	0.03	164	0.90	1	0.03	44	1.26	-	-	-	-	1	0.08
三重県	-	-	78	1.73	1	0.02	44	0.98	1	0.08	11	0.92	-	-	-	-	-	-
滋賀県	1	0.03	17	0.57	3	0.10	20	0.67	-	-	9	1.29	-	-	-	-	2	0.33
京都府	2	0.03	41	0.54	1	0.01	39	0.51	1	0.06	30	1.67	-	-	-	-	-	-
大阪府	1	0.01	125	0.65	28	0.15	123	0.64	3	0.06	50	0.96	-	-	1	0.13	-	-
兵庫県	1	0.01	79	0.59	6	0.05	65	0.49	-	-	39	1.11	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	12	0.34	18	0.51	13	0.37	-	-	19	2.11	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	33	1.06	1	0.03	12	0.39	-	-	4	1.00	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	9	0.47	-	-	20	1.05	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.40
島根県	1	0.04	18	0.78	2	0.09	23	1.00	-	-	3	1.00	-	-	-	-	-	-
岡山県	1	0.02	23	0.43	6	0.11	22	0.41	-	-	14	1.17	-	-	-	-	-	-
広島県	3	0.04	42	0.56	10	0.13	56	0.75	-	-	26	1.30	-	-	-	-	4	0.19
山口県	-	-	56	1.14	8	0.16	71	1.45	1	0.11	21	2.33	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	22	0.96	-	-	2	0.09	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	28	0.88	1	0.03	19	0.59	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	85	2.18	1	0.03	11	0.28	3	0.43	6	0.86	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	61	1.97	17	0.55	26	0.84	-	-	5	1.67	-	-	-	-	1	0.14
福岡県	1	0.01	31	0.39	20	0.25	69	0.87	-	-	60	3.33	-	-	-	-	2	0.13
佐賀県	-	-	22	0.96	3	0.13	18	0.78	-	-	11	2.75	-	-	1	0.17	-	-
長崎県	3	0.07	27	0.61	1	0.02	15	0.34	-	-	33	4.13	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	64	1.31	1	0.02	105	2.14	-	-	31	3.44	-	-	1	0.07	2	0.13
大分県	1	0.03	47	1.31	29	0.81	30	0.83	1	0.20	6	1.20	-	-	-	-	-	-
宮崎県	1	0.03	147	3.97	3	0.08	32	0.86	1	0.25	11	2.75	-	-	-	-	2	0.29
鹿児島県	1	0.02	24	0.40	2	0.03	19	0.32	-	-	5	1.00	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	8	0.24	1	0.03	7	0.21	-	-	14	1.40	-	-	-	-	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成12年37週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	28	0.06	1	0.00	4	0.01
北海道	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	1	0.05	-	-	-	-
宮城県	2	0.17	-	-	-	-
秋田県	2	0.25	-	-	-	-
山形県	2	0.22	-	-	-	-
福島県	1	0.14	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	1	0.17
群馬県	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-
千葉県	3	0.23	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	1	0.04
神奈川県	-	-	-	-	-	-
新潟県	2	0.15	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-
福井県	2	0.40	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	2	0.20
長野県	1	0.09	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-
愛知県	1	0.08	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-
滋賀県	3	0.50	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	2	0.40	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-
広島県	2	0.10	-	-	-	-
山口県	1	0.13	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-
大分県	1	0.10	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	2	0.17	-	-	-	-
沖縄県	-	-	1	0.14	-	-

感染症週報 第2巻、第37号 平成12年9月29日発行
 発行：国立感染症研究所
 厚生省保健医療局結核感染症課
 厚生省大臣官房統計情報部
 事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
 TEL：03-5285-1111
 FAX：03-5285-1129
 URL：http://idsc.nih.go.jp/index-j.html
 <国立感染症研究所 感染症情報センター>
 http://www.mhw.go.jp/
 <厚生省>
 http://www.narita-airport.or.jp/quarantine/
 <成田空港検疫所>
 http://www.forth.go.jp/
 <旅行者のための海外感染症情報>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上に訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。